

鶴見大学蔵貴重書展解説図録

古典籍と古筆切



打它十右衛門殿

鶴見大学蔵貴重書展解説図録

古典籍と古筆切

鶴見大学

鶴見大学蔵貴重書展

古典籍と古筆切

総持学園創立七十周年記念

鶴見大学大学院日本文学専攻博士課程開設記念

鶴見大学蔵貴重書展——古典籍と古筆切

会期 平成6年10月17日(月)→22日(土)

午前10時→午後7時(最終日5時終了)

会場 丸善・東京日本橋店4Fギャラリー

主催 鶴見大学

協賛 丸善

本年四月、本学大学院文学研究科日本文学専攻に、かねて念願の博士課程が開設されました。折りしも本学の母胎である学校法人総持学園は創立七十周年の佳歳を迎え、学園を挙げて慶祝行事を催すことになりました。そこでその一環として、博士課程開設の祝賀の意も合せ込めて、本学の誇る日本文学関係貴重書の所蔵の一端を公開し、広く好学・同好の方々の御覧に供すべく、ここに古典籍と古筆切を主体とする鶴見大学蔵貴重書展を開催致す運びとなりました。

総持学園は曹洞宗大本山總持寺の設立にかかる学園で、禅仏教の精神に基づく人格の形成に心掛けております。日本の文学はご承知のように、その長い歴史の中で、禅宗を含む仏教思想と深い関わりをもち、日本の仏教はまた、その思想表現において日本の文学の発達と不可分の関係にあります。こうした見地から本学では日本文学研究資料として、仏典・禅籍も含めて蒐集に努めております。特に今回は曹洞宗の開祖道元禅師御自筆の「対大己五夏闍梨法」の新たに発見された断簡一葉をその中に加え得たことを誇りに思っています。

展示の中で質量ともに勝るのは、長年にわたって収集された源氏物語の諸本や断簡であります。その他、伊勢物語とか古今集その他の和歌集の分野でも、いずれおとらぬ貴重な資料をお目にかけることのできることを喜びと致します。

本学図書館は、学内関係各位の努力もあって、大学図書館の中で優れた設備と蔵書数で名を得ておりますが、今後とも鋭意資料の蒐集に努め、学術研究に貢献できることを念願しております。

末尾となりましたが、今回の展示に場所を提供され、種々御援助をいただいた丸善の関係各位に篤く御礼申し上げます。

平成六年十月

鶴見大学学長 高崎直道

鶴見大学図書館蔵和漢古典籍の蒐書と展観

鶴見大学図書館の貴重書庫に収蔵されている図書は、和漢洋にわたって一万冊余に及ぶ。洋書では、英国作家の古刊本や異版の数々、また近世中期から近代初頭における蘭学・英学書あるいは初期翻訳書群があり、歯学部関係の貴重書では、和漢洋を含んだ古医書・図版など少なしとしないが、ここでは今回の記念展示に因み、日本文学に関連する古典籍の蒐書と展観について略述したい。わが学園の歴史は今年が創立七十周年、高等女学校に始まり、女子短期大学設立を経て現在に至っているが、本学の古典籍蒐書が開始されたのは、昭和三十八年四月に文学部を以て四年制大学が開学し、四年後に現在地のキャンパスに校舎とともに図書館が移転して以来であるから、まだ三十年に満たない蒐書歴である。

はじめは、初代文学部長の久松潜一博士を中心に、まず和歌・連歌書の写本、契沖・本居宣長など国学者の自筆資料若干が徐々に集められ、昭和四十六年六月に本学で全国大学国語国文学会春季大会が開催された時には、それらのほとんど全部四十余点を展観に供し、小冊子ではあったが展観書解説目録を発行した。本学における貴重書展の原点と言える。

一般的に大学図書館における貴重書は、関係者である碩学など、故人の文庫が中核となっている蔵書群を多く見るが、本学は、ほとんど無から始まって、営々と蒐書が続けられ、今日に至っている。従って選書に参与した学部学科や図書館の意向が、蔵書の形成に、おのずから反映しているのではあるが、何分、限られた予算で、古典籍の個々が市場に出現した時を計って収蔵に漕ぎつけるのであるから、思い通りに集められるわけもなかった。それでも、和古書の中で源氏物語に重点の一つが置かれているのには理由がある。昭和三十九年一月、久松博士が当時会長をされていた紫式部学会の事務局が、文学部日本文学研究室に置かれることになった。この学会は昭和七年に、源氏物語に代表される古典文学の啓蒙を目的として設立され、若き日の久松博士・池田亀鑑博士らを役員や講師に迎えて、雑誌『むらさき』の刊行、古典講座の開講など活発な活動を展開した。戦後も、加えて講演会の開催、源氏物語劇上演(歌舞伎座)の推進、研究叢書の刊行を行い、鶴見に事務局が移って三十年余、学外の源氏学者をも結集して、今に活動的である。昭和五十年代初めより源氏物語関係書蒐集に重点の一つが置かれたのも、自然の流れであった。

昭和五十三年四月、図書館入口に展示棚を設け、毎年数回、テーマを決めて各分野ごとの貴重書を陳列し始め、現在も続いているが、当初、日本文学関係書が過半を占めていたのも、展示しうる蔵書の傾向を物語っていた。昭和五十四年十月の日本図書館学会研究大会、同五十九年六月の全国大学博物館学会大会、同六十一年五月の中古文学会春季大会、同六十三年五月の中世文学会春季大会が本学で催された折も、それぞれに古典籍の展観が行われた。

昭和六十一年九月、念願の新図書館が開館された時にも、当然のことながら祝賀展示が催され、テーマは仏典、とりわけ禅籍で

あつた。その折に記念收藏されたのが、道元禪師自筆『対大己法』断簡(道正庵切)一葉と、天平書写永恩具大般若経五卷であり、他の仏典の中でも、ひとときわ光彩を放つた。そして道正庵切が京都国立博物館蔵国宝手鑑『藻塩草』に捺されている一葉と表裏の関係にあることが判明し、全国紙を賑わせることともなった。これに刺激されたわけではないが、その頃から古筆切の蒐集にも重点の一つが置かれた。藤原俊成自筆千載集断簡(日野切)の收藏が、やはり各紙に報道されたのも、それから間もなくのことであつた。大学にとって、図書は研究・教育に供すべき重要な資料であり、特に貴重書は、一つとして同一のものがない文化財であるから、鶴見大学にとどまらず、貴重文献として、将来にわたって伝えていかなければならない。従つて貴重書庫において嚴重に保管し続けるのであるが、貴重とは言え、利用しないで死蔵するのでは意味がない。われわれは、これらを駆使して、日本文学における文献学的研究の一拠点たらしめる意欲に燃えているが、専門的な立場のみにとどまらず、機会があれば、一般好学の方々に展覧し、原典の持つ輝きを直接ご覧頂きたいとも願っている。

一昨年秋の文学部創立三十周年記念には、図書館において公開展示「シエイクスピア全集展」「与謝野晶子と源氏物語展」をそれぞれ開催したが、学外における展示は今回が二度目である。第一回は平成元年の夏、大学院文学研究科修士課程開設記念として、横浜馬車道の有隣堂ギャラリーにおいて、日本文学専攻・英米文学専攻に関する貴重書各80点余を展覧した。

それから五年、古典籍もいささか充実した。今回、はからずも道正庵切がもう一枚出現したのは、道元自筆資料が極めて稀なるを思うと、因縁としか思われない。定家自筆の明月記断簡が三軸收藏されたのも、父俊成の日野切が招いたのであろうか。勿論、源氏物語に偏らず、和歌・連歌・漢籍や江戸文芸など、広い視野のもとで一步一步、地道な蒐書を続けていきたい。

図録では、展示した全資料を、参考出品を含めすべて収録し、それぞれに略解題を付した。解題は同僚の納富常天教授・高田信敬教授と私とが分担執筆し、書誌全般の確認や編集は図書館の吉田道彦整理係長と府川修次・田村早智両係員が担当したが、企画の推進には飯島弥栄子図書館事務長心得をはじめとする館員が当つた。解説は短期間のうちに調査執筆し、かつ広範な内容にわたるので、繁簡よろしきをえない上、釈文や引用文の漢字字体など必ずしも統一できなかったが、いささかの参考にはなるであろう。また高田教授蔵品二、三の出陳を願つた。図録の題字は貞政研司教授が揮毫し、写真撮影は写真家の渡辺和宏氏に依頼して、制作は神奈川新聞社が担当した。関係各位の労を多としたい。

ささやかな古典籍と古筆切ではあるが、蒐書の始発より関与してきた者として一言した。どうぞ、ごゆるりと御覧いただきたい。

平成六年十月

文学部教授 池田利夫

目 録

I 思想と学芸

1	〔五合書籍目録〕	平安時代末期	卷子 一軸	(37)	(83)
2	本朝書策目録 鎌倉時代末期書写本透写	江戸時代初期	卷子 一軸	(37)	(83)
3	大般若経 卷一七六一一八〇 天福元年興福寺永恩加點識語	天平時代	卷子 五軸	(13)	(84)
4	〔律抄〕断簡	平安時代中期	軸装 一幅	(38)	(84)
5	東寺旧藏伝授書				
	イ 〔第三重口決〕	鎌倉時代初期	卷子 一軸	(38)	(84)
	ロ 〔大次第口決〕	建暦元年(一一二二)	卷子 一軸	(39)	(84)
	ハ 光明真言口伝 (盛深筆)	弘長四年(一一六四)	卷子 一軸	(39)	(85)
6	仏果園悟禅師碧巖録 五山版	室町時代初期刊	袋綴 五冊	(40)	(85)
7	〔対大己五夏闇梨法〕断簡 道正庵切 (道元自筆)	寛元二年(一一四四)	額装 二葉	(13)	(85)
8	才葉抄 (藤原教長口伝) (伝世尊寺行能筆)	鎌倉時代末期	卷子 一軸	(40)	(86)

II うたのこころ

9	古今和歌集 (兼好古今)	室町時代中期	列帖装 一冊	(41)	(86)
10	古今和歌集	室町時代中期	列帖装 一冊	(41)	(86)
11	古今和歌集 (契沖筆)	延宝貞亨頃	列帖装 二冊	(42)	(87)
12	古今和歌集 豆本	江戸時代中期	袋綴 二冊	(42)	(87)
13	古今和歌集断簡 (伝藤原伊行筆)	平安時代後期	軸装 一幅	(16)	(87)

図版

解説

14	古今和歌集断簡	今城切 (藤原教長筆)	治承元年(一一七七)	軸装	一幅	(16)	(88)
15	古今和歌集断簡	中山切 (伝藤原兼実筆)	鎌倉時代初期	軸装	一幅	(14)	(88)
16	後撰和歌集	零本	室町時代初期	列帖装	一冊	(43)	(88)
17	拾遺和歌集断簡	筑後切 (伏見天皇筆)	鎌倉時代後期	軸装	一幅	(15)	(89)
18	千載和歌集断簡	日野切 (藤原俊成筆)	文治四年(一一八八)頃	軸装	一幅	(17)	(89)
19	新古今和歌集断簡	西山切 (伝高倉清範筆)	鎌倉時代中期	軸装	一幅	(17)	(89)
20	新古今和歌集断簡	(伝藤原為家筆)	鎌倉時代中期	軸装	一幅	(18)	(90)
21	新勅撰和歌集	上 (伝後伏見天皇筆)	鎌倉時代末期	列帖装	一冊	(44)	(90)
22	新勅撰和歌集	下	鎌倉時代末期	列帖装	一冊	(44)	(90)
23	新勅撰和歌集断簡	(伝二条為氏筆)	鎌倉時代後期	軸装	一幅	(18)	(90)
24	風雅和歌集断簡		南北朝時代	軸装	一幅	(45)	(91)
25	定家八代抄断簡	(伝藤原為家筆)	鎌倉時代中期	軸装	一幅	(45)	(91)
26	松花和歌集断簡	(伝浄弁筆)	南北朝時代	軸装	一幅	(19)	(91)
27	類聚歌合断簡	二条切 (伝藤原俊忠筆)	平安時代後期	軸装	一幅	(19)	(92)
28	時代不同歌合		室町時代初期	列帖装	一冊	(46)	(92)
29	[後鳥羽院御自歌合]		室町時代前期	卷子	一軸	(46)	(92)
30	猿丸集断簡	(伝藤原公任筆)	平安時代後期	軸装	一幅	(20)	(93)
31	定頼集断簡	四条殿切 (伝藤原定家筆)	江戸時代初期	軸装	一幅	(22)	(93)
32	[伏見院御集]断簡	広沢切 (伏見天皇自筆)	鎌倉時代後期	軸装	一幅	(22)	(93)
33	[未詳歌集]断簡	金剛院切 (伝龜山天皇筆)	鎌倉時代後期	軸装	一幅	(21)	(94)
34	万葉代匠記序	(契沖自筆)	元禄元年(一六八八)頃	卷子	一軸	(47)	(94)
35	万葉集問答	(田中道麿、本居宣長自筆)					

36	詠歌大概 (紹巴筆)	安永七、天明二年(一七七八、一七八二)	袋綴	四冊	(47)	(94)
37	〔秀歌之体大略注〕 (伝三条西実隆筆)	天正元年(一五七三)	列帖装	一冊	(48)	(95)
38	初心用意条々 (伝二条為重筆)	室町時代後期	袋仮綴	一冊	(48)	(95)
39	井蛙抄	南北朝時代	列帖装	一冊	(49)	(95)
40	〔未来記雨中吟抄〕 (山科言経筆)	天文一四年(一五四五)	袋綴	一冊	(49)	(96)
41	詠歌大概〔聞書〕 (岡田賢桃筆)	元亀四年(一五七三)	袋綴	一冊	(50)	(96)
42	老葉 零本 附湯山三吟 (伝荒木田守武筆)	永祿七年(一五六四)	袋綴	一冊	(50)	(96)
43	賦何人連歌 (文明一八年九月二三日)	室町時代中期	卷子	三軸	(51)	(96)
44	新撰菟玖波集 (伝飛鳥井雅康、大内政弘筆)	室町時代中期	卷子	一軸	(52)	(97)
45	〔三島千句〕 (伝宗祇自筆)	文明一八年(一四八六)	列帖装	三冊	(52)	(97)
46	賦何船連歌 (伝寿慶筆)	室町時代中期	大和綴	一冊	(53)	(97)
47	〔宗祇名所百韻〕 (伝宗祇自筆)	明応頃	列帖装	一冊	(54)	(98)
48	春夢草 (肖柏自筆)	室町時代中期	袋綴	一冊	(54)	(98)
49	〔聖廟法楽千句〕 断簡	永正一二年(一五一五)	列帖装	一冊	(55)	(98)
50	竹取物語	室町時代後期	軸装	一幅	(54)	(98)
51	竹取物語断簡 (伝後光厳天皇筆)	江戸時代前期	列帖装	一冊	(56)	(99)
52	伊勢物語 (伝姉小路濟継筆)	室町時代初期	列帖装	一冊	(24)	(99)
53	伊勢物語 藤原定家筆臨模本 (伝小堀遠州筆)	室町時代中期	列帖装	一冊	(56)	(99)
54	伊勢物語 (伝山崎宗鑑筆)	室町時代後期	列帖装	一冊	(24)	(100)
		室町時代後期	列帖装	一冊	(57)	(101)

55	伊勢物語 (近衛信尹筆)	慶長初年頃	列帖装	一冊	(25)	(101)
56	伊勢物語 (野々口立圃筆)	江戸時代前期	列帖装	一冊	(57)	(102)
57	伊勢物語断簡 (伝慈鎮(円)筆)	鎌倉時代前期		一葉	(23)	(102)
58	伊勢物語断簡 越前切 (伝吉田兼好筆)	南北朝時代	軸装	一幅	(23)	(103)
59	伊勢物語系図	江戸時代前期	袋綴	一冊	(58)	(103)
60	大和物語 上	江戸時代前期	列帖装	一冊	(58)	(103)
61	大和物語 上 古活字版	元和中刊	袋綴	一冊	(59)	(103)
62	宇津保物語残簡 俊蔭卷 奈良絵本	江戸時代前期	卷子	一軸	(25)	(104)
63	宇津保物語 俊蔭卷 古活字版	寛永中刊	袋綴	二冊	(59)	(104)
64	源氏物語 須磨卷 附帚木卷残簡 (伝冷泉為相筆)	鎌倉時代後期	列帖装	一冊	(26)	(104)
65	源氏物語 須磨卷 (伝二条為定筆)	南北朝時代	列帖装	一冊	(26)	(105)
66	源氏物語 賢木卷	室町時代初期	列帖装	一冊	(60)	(105)
67	源氏物語 越国文庫旧蔵本	室町時代後期	列帖装	四九冊	(60)	(105)
68	源氏物語 澪標卷 別本	室町時代後期	折紙列帖装	一冊	(61)	(105)
69	源氏物語 花散里卷 別本	室町時代後期	折紙列帖装	一冊	(61)	(106)
70	源氏物語 松風卷 (里村玄仲筆)	慶長一九年(一六一四)	列帖装	一冊	(61)	(106)
71	源氏物語 淀藩稲葉家旧蔵本	慶長頃	包背装	三三冊	(62)	(106)
72	源氏物語 奥入付 (伝徳大寺公維筆)	江戸時代初期	袋綴	五二冊	(62)	(107)
73	源氏物語 龍文刷外題枡形本	江戸時代前期	列帖装	五四冊	(27)	(107)
74	源氏物語 須磨卷拔書 (伝梶井宮筆)	江戸時代前期	卷子	一軸	(27)	(107)
75	源氏物語 (中山篤親等寄合書)	正徳二年(一七二二)以前	列帖装	五四冊	(63)	(108)
76	源氏物語 蒔絵箱入裝飾本	江戸時代中期	列帖装	五四冊	(28)	(108)

77	源氏物語 賢木、明石、繪合卷、奈良繪本	江戸時代前期	列帖装 三冊	(28)	(108)
78	源氏物語 伝嵯峨本古活字版	慶長中刊	袋綴 一五冊	(29・63)	(108)
79	源氏物語 古活字版	寛永中刊	袋綴 五四冊	(63)	(109)
80	源氏物語断簡 賢木卷 河内本 (伝藤原為家筆)	鎌倉時代中期	軸装 一幅	(64)	(109)
81	源氏物語断簡 夕顔卷 伊予切 (今川了俊筆)	応永八年(二四〇二)	一葉	(30)	(109)
82	源氏物語断簡				
	イ 空蟬卷	鎌倉時代末期	一葉	(64)	(110)
	ロ 若紫卷 河内本 (伝寂蓮筆)	鎌倉時代中期	二葉	(65)	(111)
	ハ 葵卷 (伝冷泉為相筆)	鎌倉時代後期	一葉	(64)	(111)
	ニ 須磨卷 河内本	鎌倉時代後期	一葉	(65)	(111)
	ホ 若菜卷 上	鎌倉時代後期	一葉	(65)	(112)
	ヘ 柏木卷	鎌倉時代末期	二葉	(66)	(112)
	ト 総角卷 別本 (伝世尊寺行能筆)	鎌倉時代後期	一葉	(66)	(112)
	チ 宿木卷 別本 (伝藤原為家筆)	鎌倉時代後期	一葉	(66)	(113)
	リ 東屋卷 河内本 (伝阿仏尼筆)	鎌倉時代中期	一葉	(67)	(113)
	又 夢浮橋卷 (伝世尊寺行能筆)	鎌倉時代末期	一葉	(67)	(113)
83	源氏物語系図 巢守三位本	室町時代末期	折本 一帖	(68)	(113)
84	光源氏物語系図	江戸時代初期	折本 一帖	(68)	(114)
85	源氏物語系図断簡 古系図切 (伝冷泉為相筆)	鎌倉時代後期	一葉	(67)	(114)
86	紫明抄残卷	鎌倉時代末期	列帖装 一綴	(69)	(114)
87	河海抄・花鳥余情 [抄出]	室町時代後期	袋綴 三冊	(69)	(115)
88	三源一覽 零本	室町時代後期	袋綴 一冊	(69)	(115)

89	〔弄花抄〕 零本	室町時代後期	袋綴 一冊	(70)	(115)
90	源氏物語抄 (紹巴抄) 古活字版	寛永中刊	袋綴 二〇冊	(70)	(116)
91	岷江入楚 帚木卷	慶長頃	袋綴 一冊	(70)	(116)
92	紫塵愚抄 零本	室町時代末期	袋綴 一冊	(71)	(116)
93	源氏物語拔書抄 (源氏大鏡)	江戸時代初期	列帖装 四冊	(71)	(116)
94	源概集 (源氏小鏡) (伝中院通勝筆)	室町時代末期	列帖装 一冊	(71)	(117)
参考1	梗概源氏物語 (与謝野晶子自筆草稿)	昭和初年	折帖 二帖	(72)	(131)
95	源氏双六 付「うちやうの事」 袖珍本	江戸時代後期刊	袋綴 二八冊	(29)	(117)
参考2	源氏物語絵 空蟬卷 奈良絵	江戸時代中期	額装 一面	(33)	(132)
96	源氏五十四帖絵卷 (伝狩野探幽原凶幽遠齋模写)	天保二年(一八三二)	卷子 三軸	(32)	(117)
参考3	源氏物語屏風 桐壺・胡蝶卷	江戸時代中期	四曲一隻	(32)	(132)
97	狭衣物語 古活字版	元和九年(一六三三)刊	袋綴 八冊	(72)	(117)
98	狭衣物語断簡 (伝阿仏尼筆)	鎌倉時代後期	軸装 一幅	(30)	(118)
99	浜松中納言物語 卷二	江戸時代初期	袋綴 一冊	(73)	(118)
100	浜松中納言物語 安田躬弦書入本	江戸時代後期	袋綴 四冊	(73)	(119)
101	栄花物語断簡 (伝藤原家隆筆)	鎌倉時代後期	一葉	(75)	(120)
102	栄花物語断簡 (伝冷泉為相筆)	鎌倉時代末期	軸装 二幅	(75)	(120)
103	駒競行幸絵詞 (狩野養信模写)	文政一一年(一八二八)	卷子 一軸	(33)	(120)
104	水鏡	江戸時代前期	列帖装 三冊	(73)	(121)
105	平家物語 零本	室町時代末期	袋綴 二冊	(74)	(121)
106	平家物語抄出 大原御幸	慶長一七年(一六一二)	卷子 一軸	(74)	(122)
107	異本平家物語断簡 長門切 (伝世尊寺行俊筆)	鎌倉時代末期	一〇葉	(76・77)	(122)

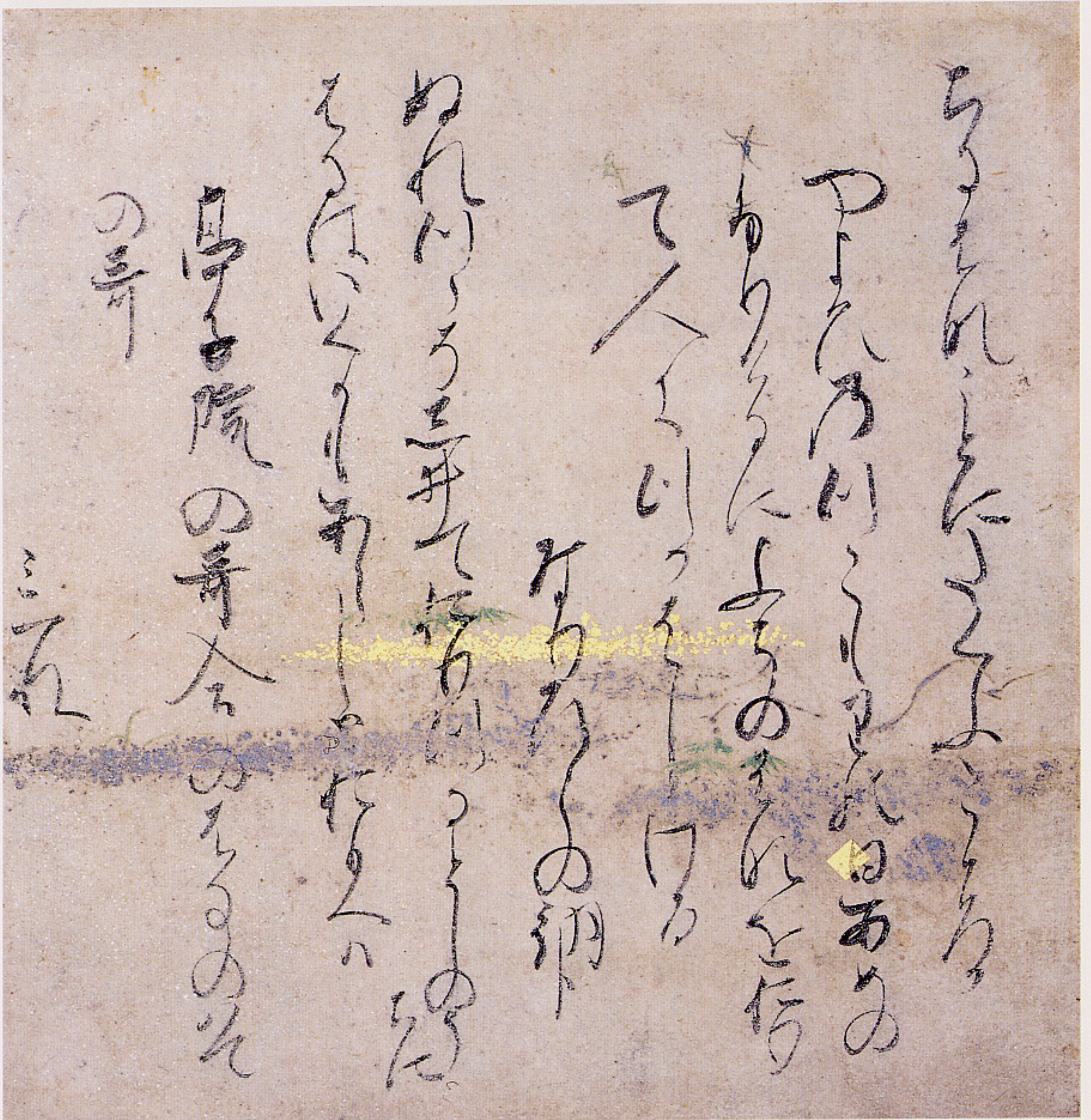
108	さごろも 奈良絵本	江戸時代前期	袋綴	三冊	(33)	(123)
109	てんじん 下巻 奈良絵本	室町時代末期	袋綴	一冊	(34)	(124)
110	扇の草子断簡 (伝後花園院勾当内侍筆)	室町時代後期		一葉	(34)	(124)

IV 筆のまにまに

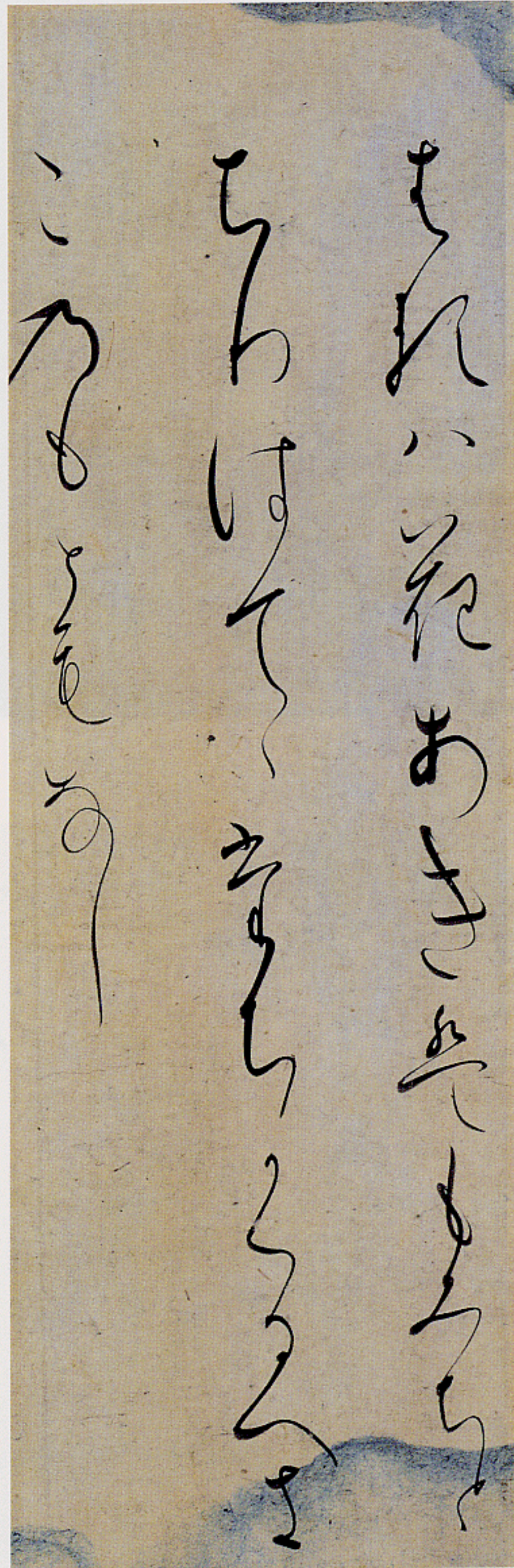
111	枕草子 古活字版	寛永中刊	袋綴	四冊	(78)	(124)
112	徒然草 卷上 古活字版	慶長中刊	袋綴	一冊	(78)	(125)
113	土佐日記 藤原定家筆臨模本 (伝冷泉為広筆)	江戸時代初期	列帖装	一冊	(78)	(125)
114	土佐日記 契沖自筆付箋縫付本	寛永二〇年(一六四三)刊	袋綴	一冊	(79)	(126)
115	明月記断簡 (藤原定家自筆)	鎌倉時代前期	軸装	三幅	(36)	(126)

V 和と漢と

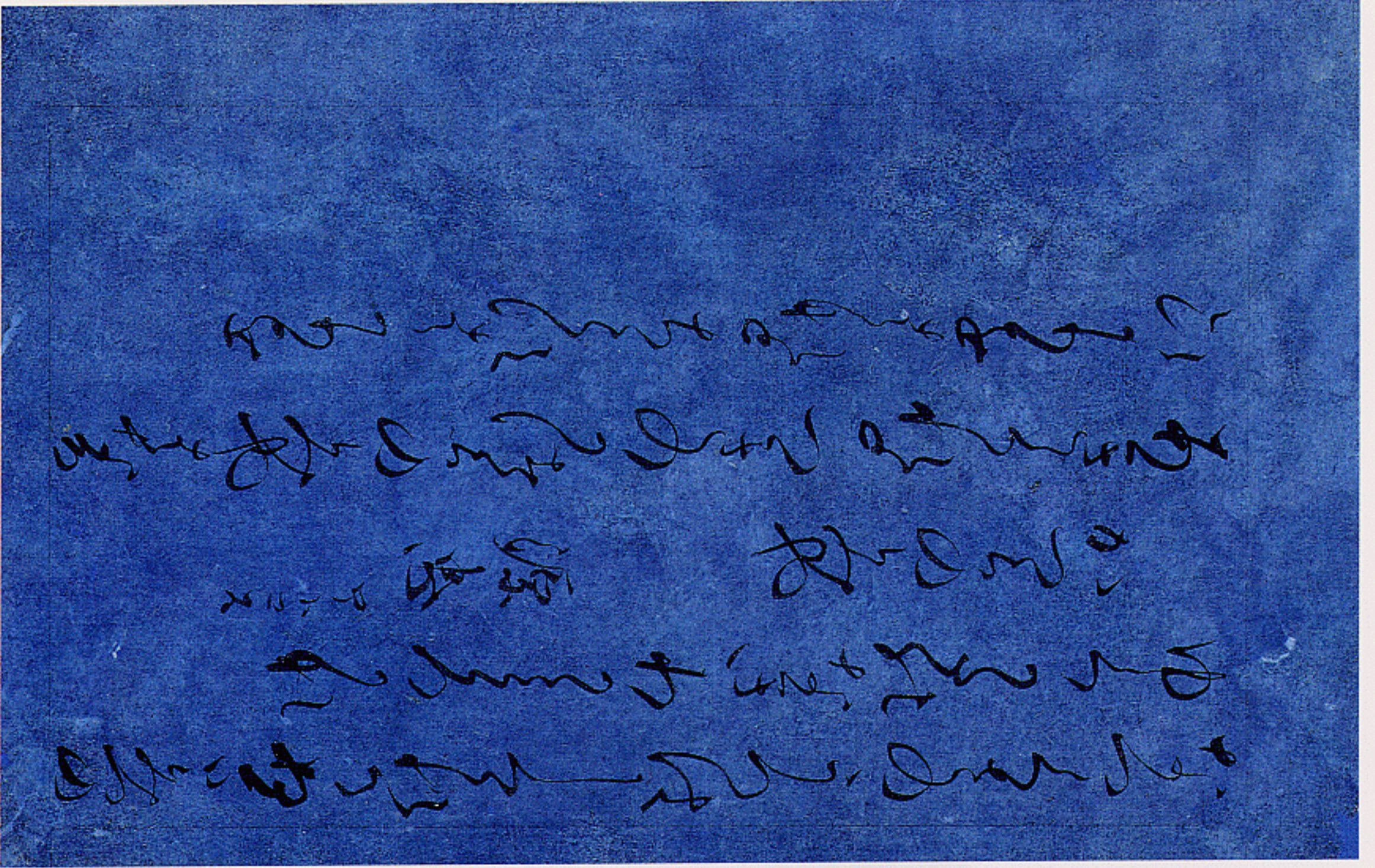
116	和漢朗詠集 (伝後京極良経筆)	鎌倉時代初期	卷子	二軸	(35)	(127)
117	和漢朗詠集断簡 (伝藤原忠通筆)	鎌倉時代後期	軸装	一幅	(31)	(127)
118	和漢朗詠集断簡 色紙朗詠切 (伝世尊寺行能筆)	鎌倉時代後期	軸装	一幅	(31)	(128)
119	城西聯句 古活字版	元和四年(一六一八)刊	袋綴	一冊	(79)	(128)
120	風俗通残簡	元大徳九年(一三〇五)刊	粘葉装	一冊	(81)	(128)
121	烏台正譌凌雲詩経 (詩集伝)	明万暦一四年(一五八六)刊	袋綴	八冊	(80)	(129)
122	翰林評選皇明歴科郷会墨卷	明万暦二五年(一五九七)刊	袋綴	四冊	(80)	(129)
123	文選 古活字版	寛永二年(一六二五)刊	袋綴	三一冊	(81)	(130)
124	白氏長慶集 銅活字版	明正徳八年(一五一三)刊	袋綴	二四冊	(82)	(130)
125	大慈寺八景詩歌断簡 畠山切 (伝二条良基筆)	南北朝時代	軸装	一幅	(82)	(131)



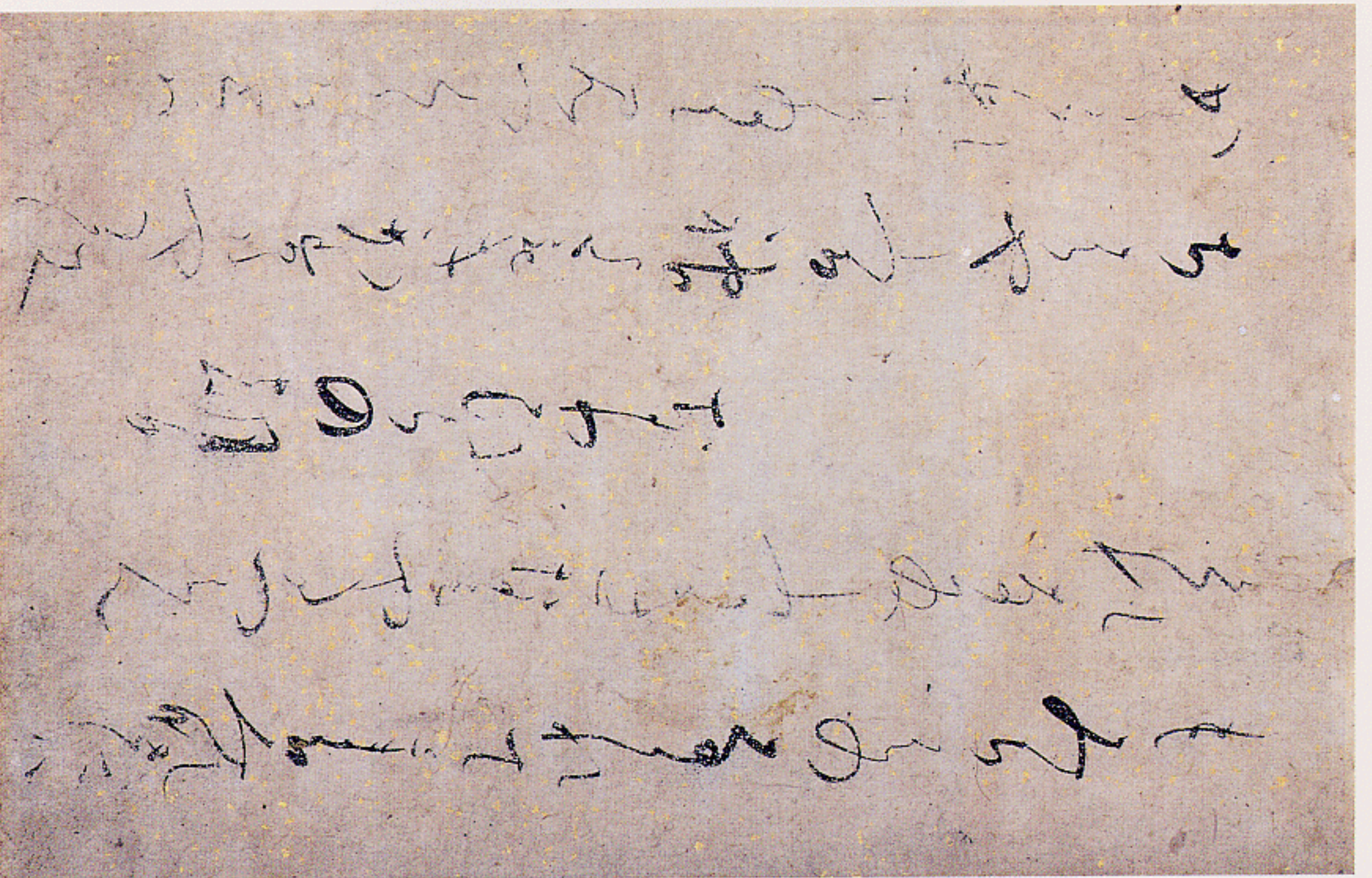
15 古今和歌集断简 (伝藤原兼実筆)



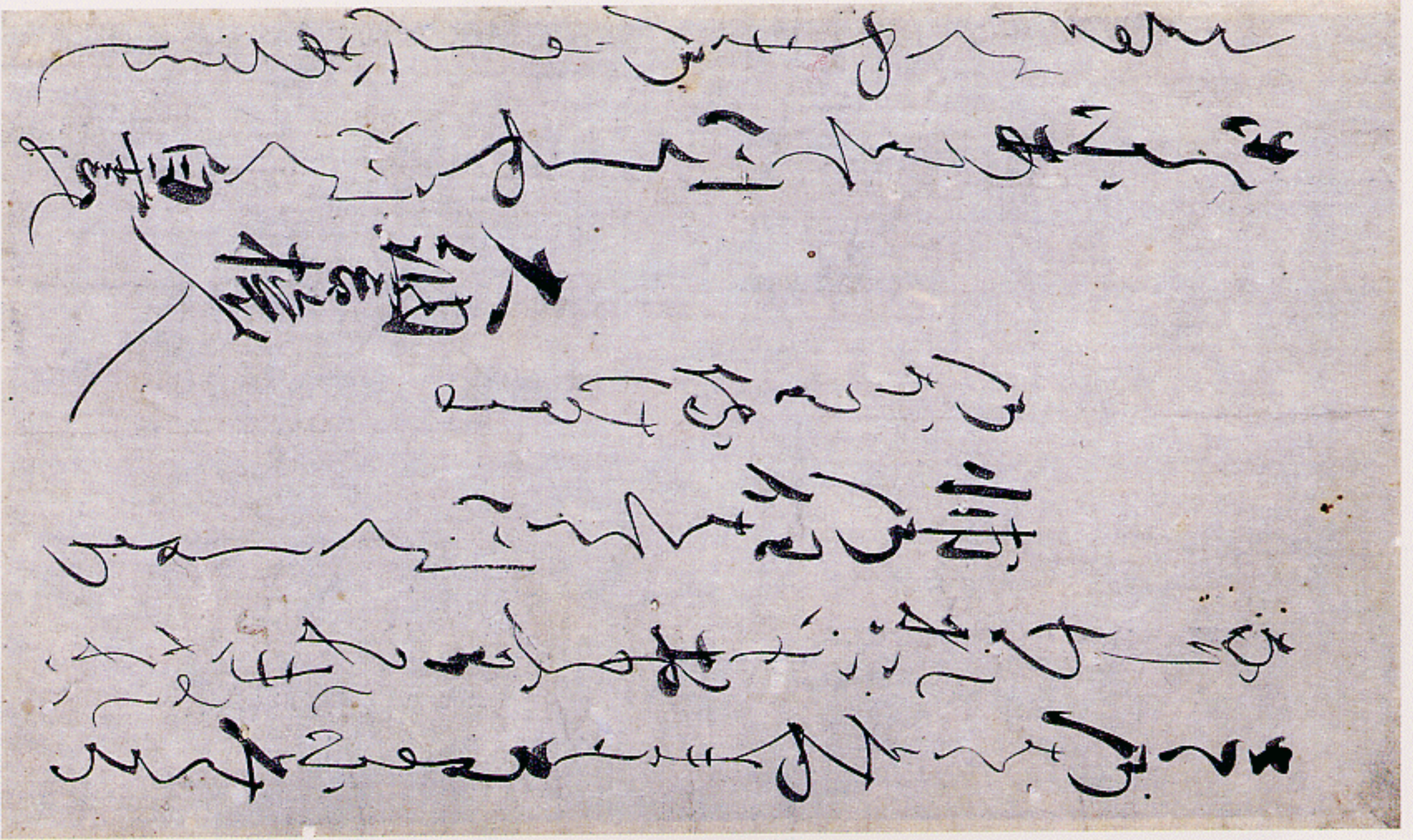
17 拾遺和歌集断簡（伏見天皇筆）



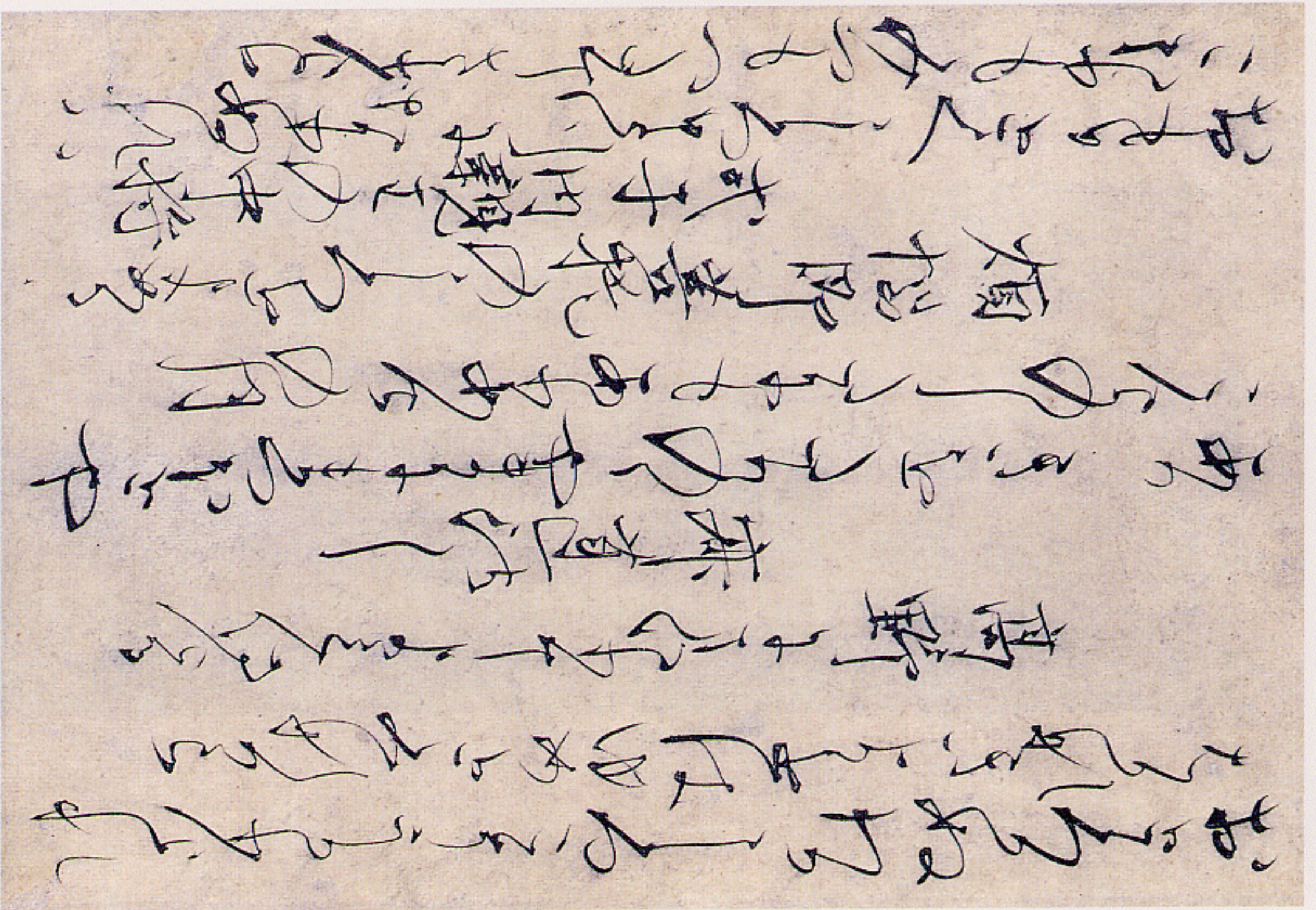
14 古今和歌集断简 (藤原教長筆)



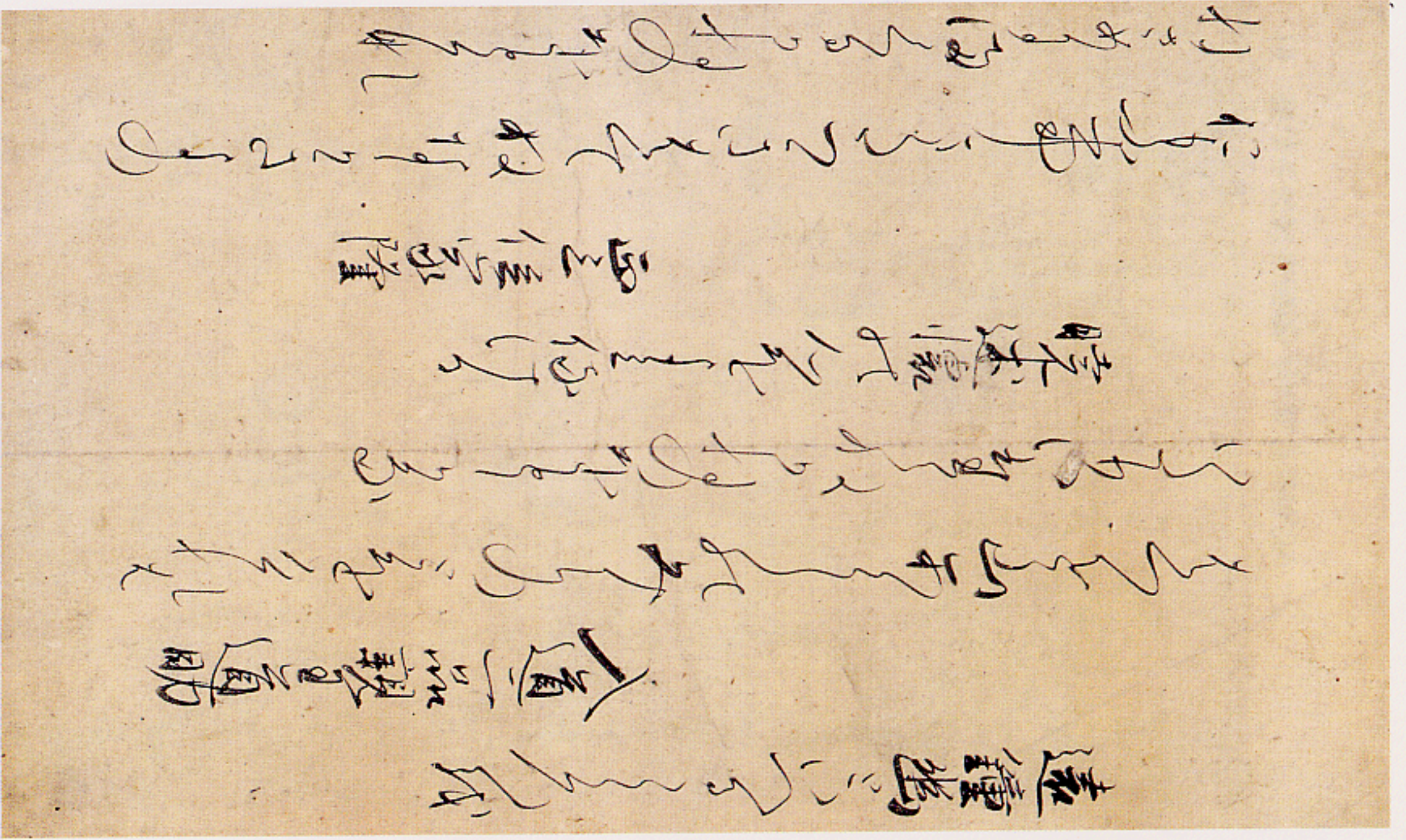
13 古今和歌集断简 (伝藤原伊行筆)



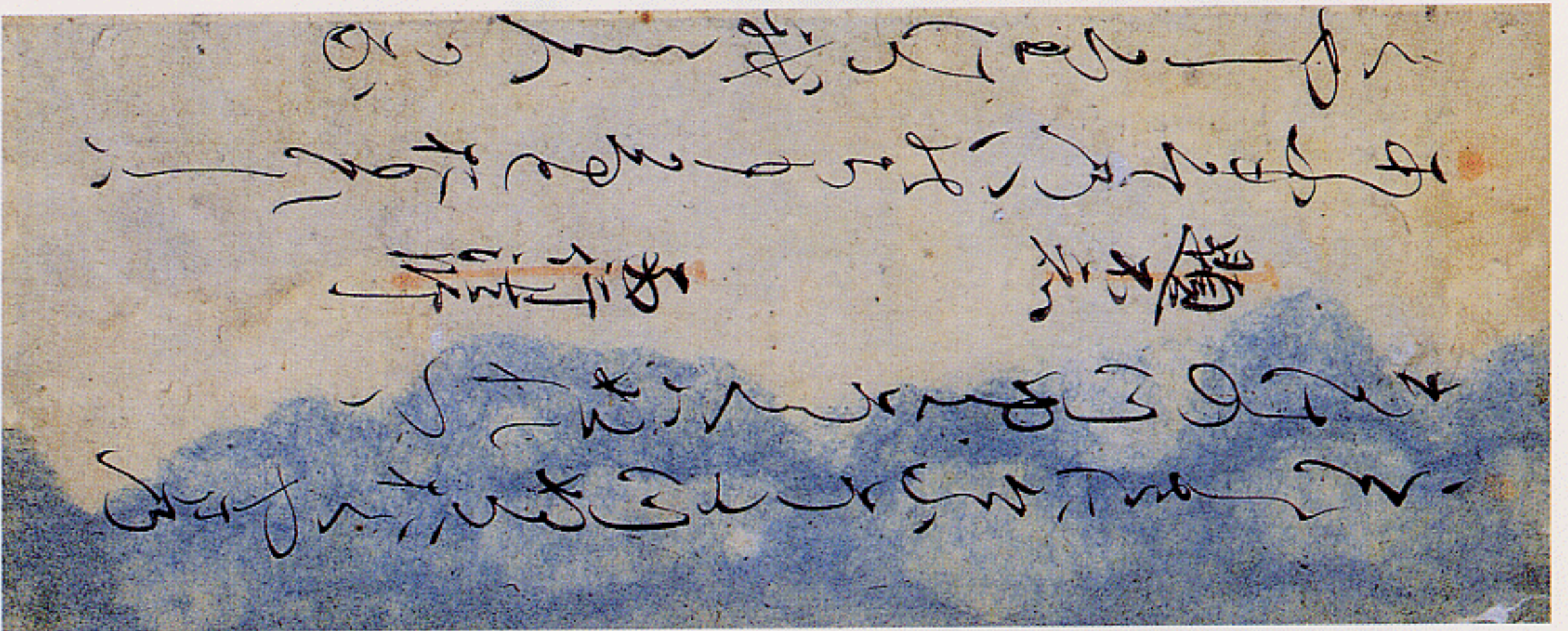
19 新古今和歌集断简 (伝高倉清範筆)



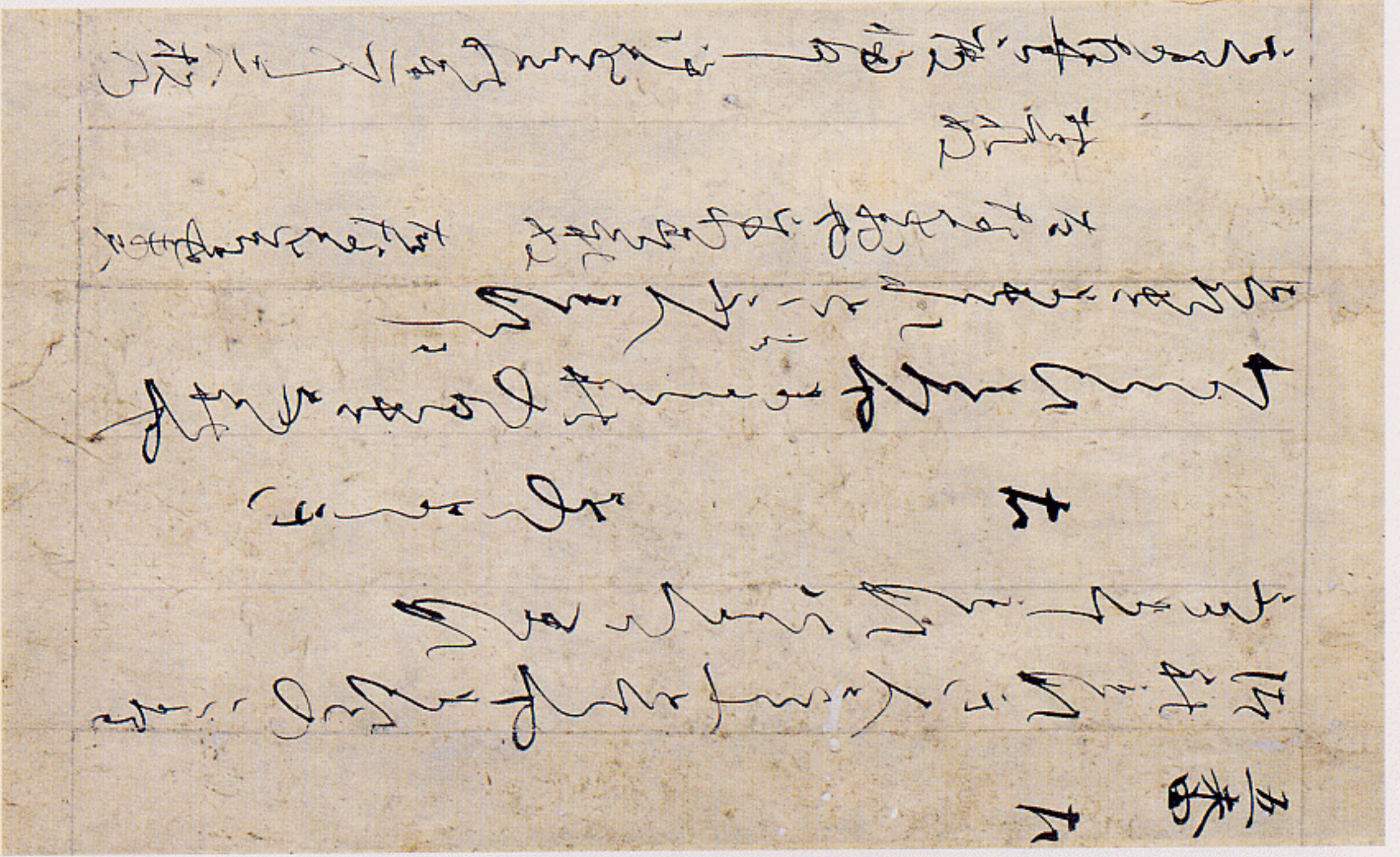
18 千載和歌集断简 (藤原俊成筆)



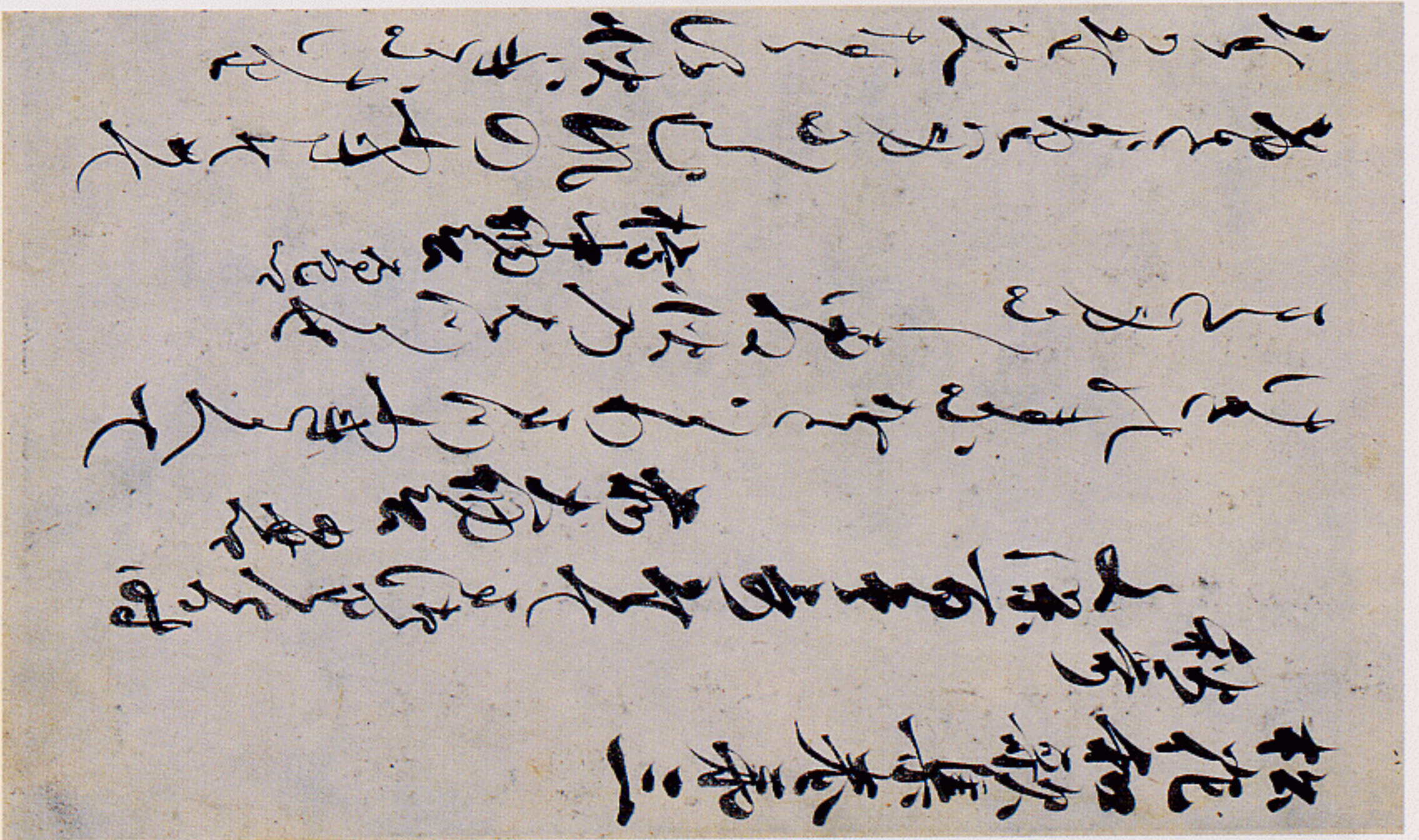
23 新勅撰和歌集断簡 (伝二条為氏筆)



20 新古今和歌集断簡 (伝藤原為家筆)



27 類聚歌合断簡 (伝藤原俊忠筆)



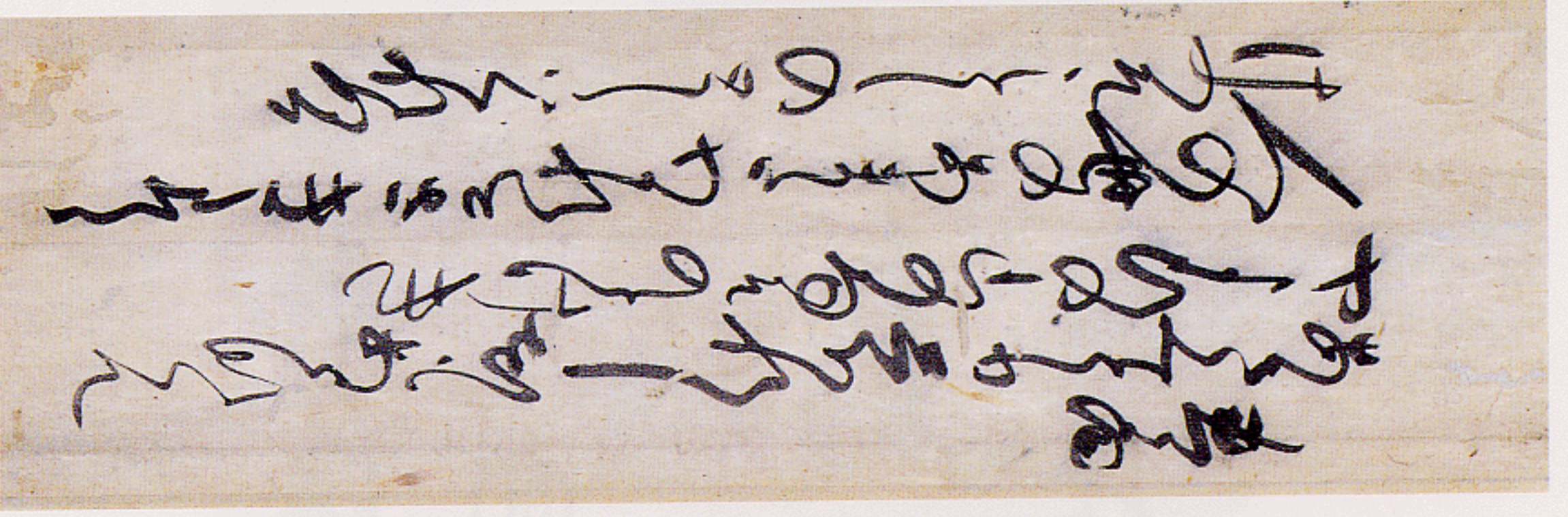
26 松花和歌集断簡 (伝淨弁筆)

猿丸集断簡 (伝藤原公任筆)

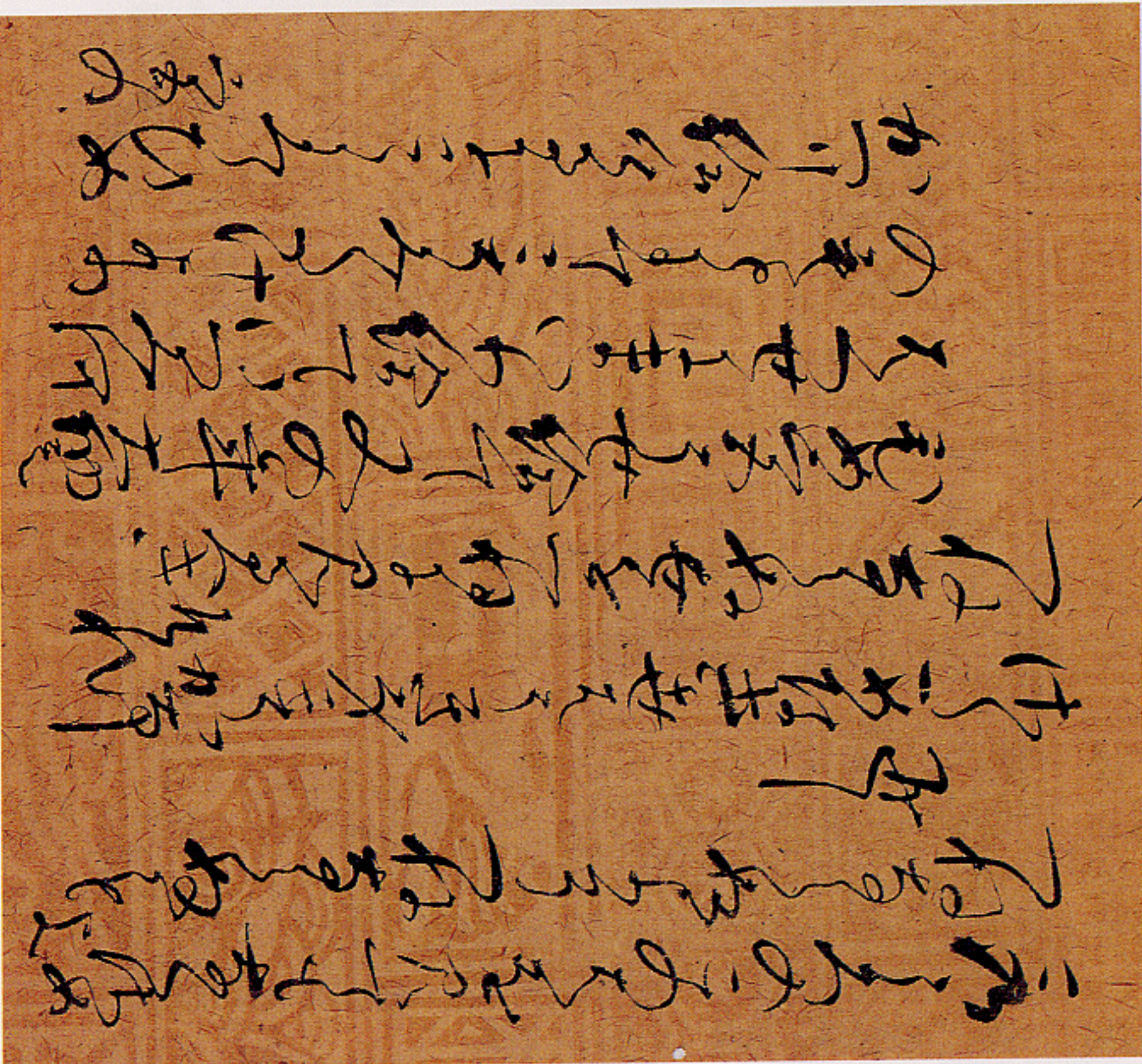
30 猿丸集断簡 (伝藤原公任筆)



33 〔未詳歌集〕断簡（伝亀山天皇筆）



32 〔伏見院御集〕断簡 (伏見天皇自筆)



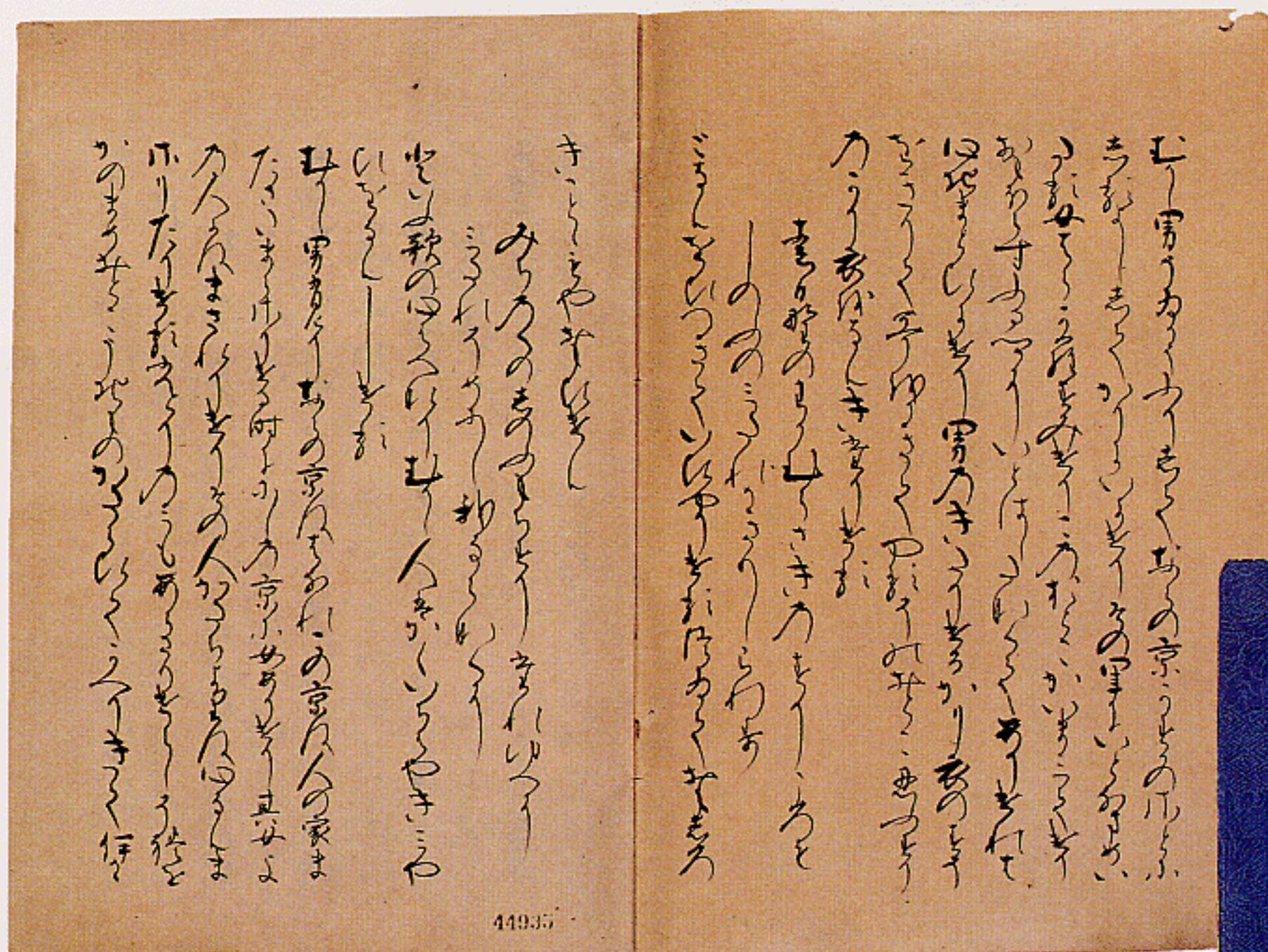
31 定頼集断簡 (伝藤原定家筆)

Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), consisting of approximately 10 lines of text. The ink is dark and the paper is aged and slightly yellowed.

58 伊勢物語断簡 (伝吉田兼好筆)

Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), consisting of approximately 8 lines of text. The ink is dark and the paper is aged and slightly yellowed.

57 伊勢物語断簡 (伝慈鎮(円)筆)



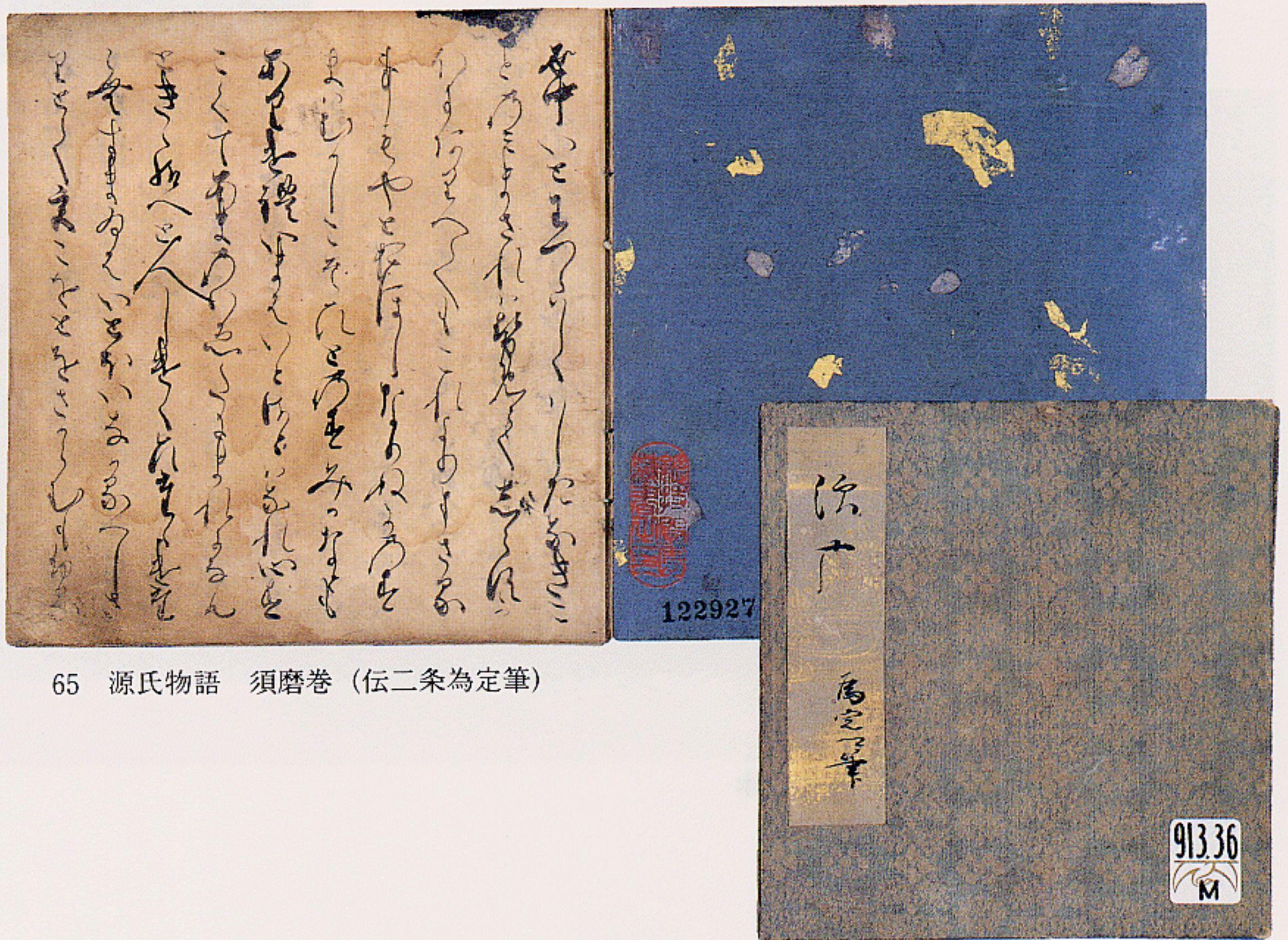
55 伊勢物語 (近衛信尹筆)



62 宇津保物語残簡 俊蔭卷 奈良絵本



64 源氏物語 須磨卷 附帚木卷残簡 (伝冷泉為相筆)



65 源氏物語 須磨卷 (伝二条為定筆)



73 源氏物語 龍文刷外題枡形本



74 源氏物語 須磨巻抜書 (伝梶井宮筆)



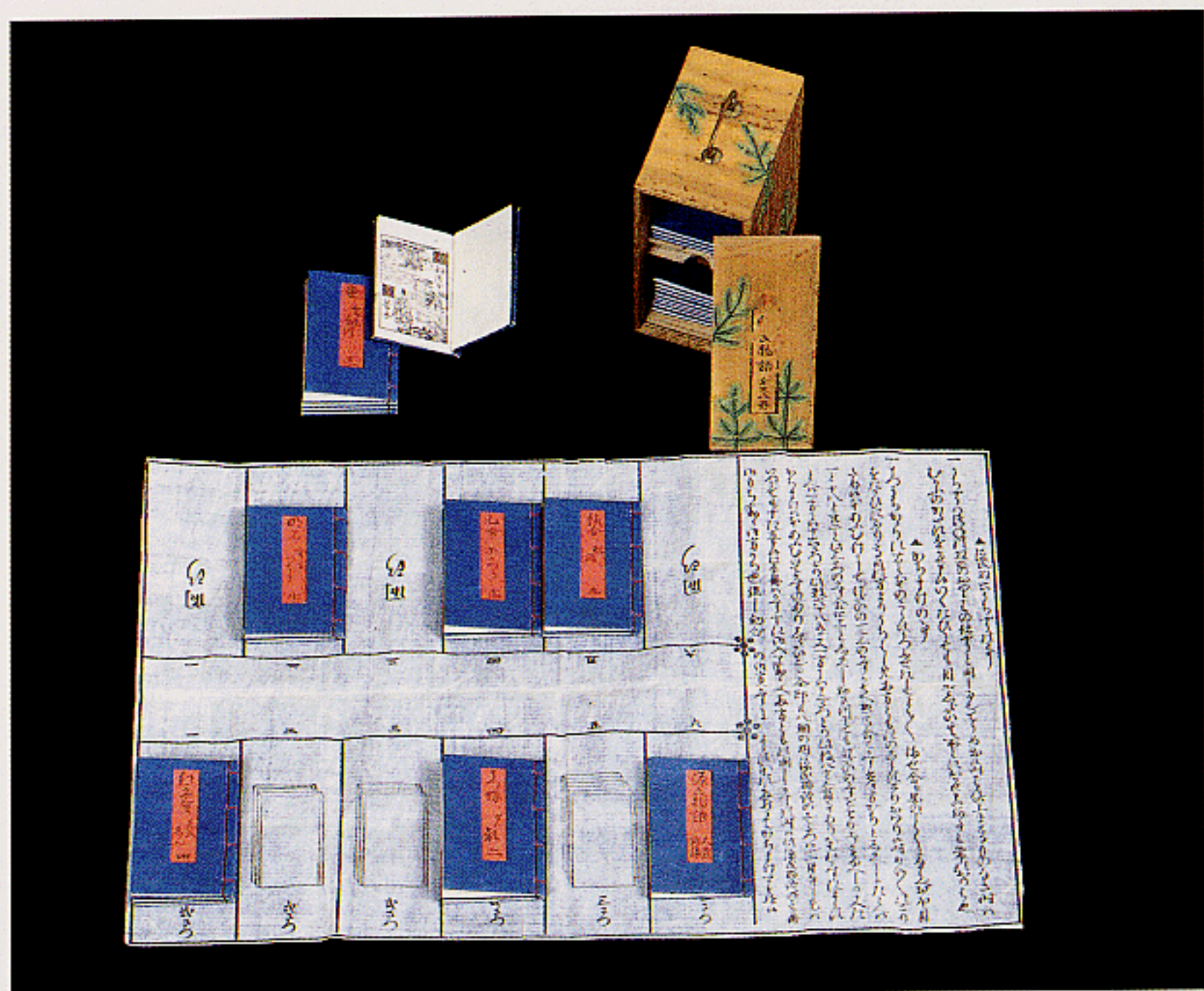
76 源氏物語 蒔絵箱入装飾本



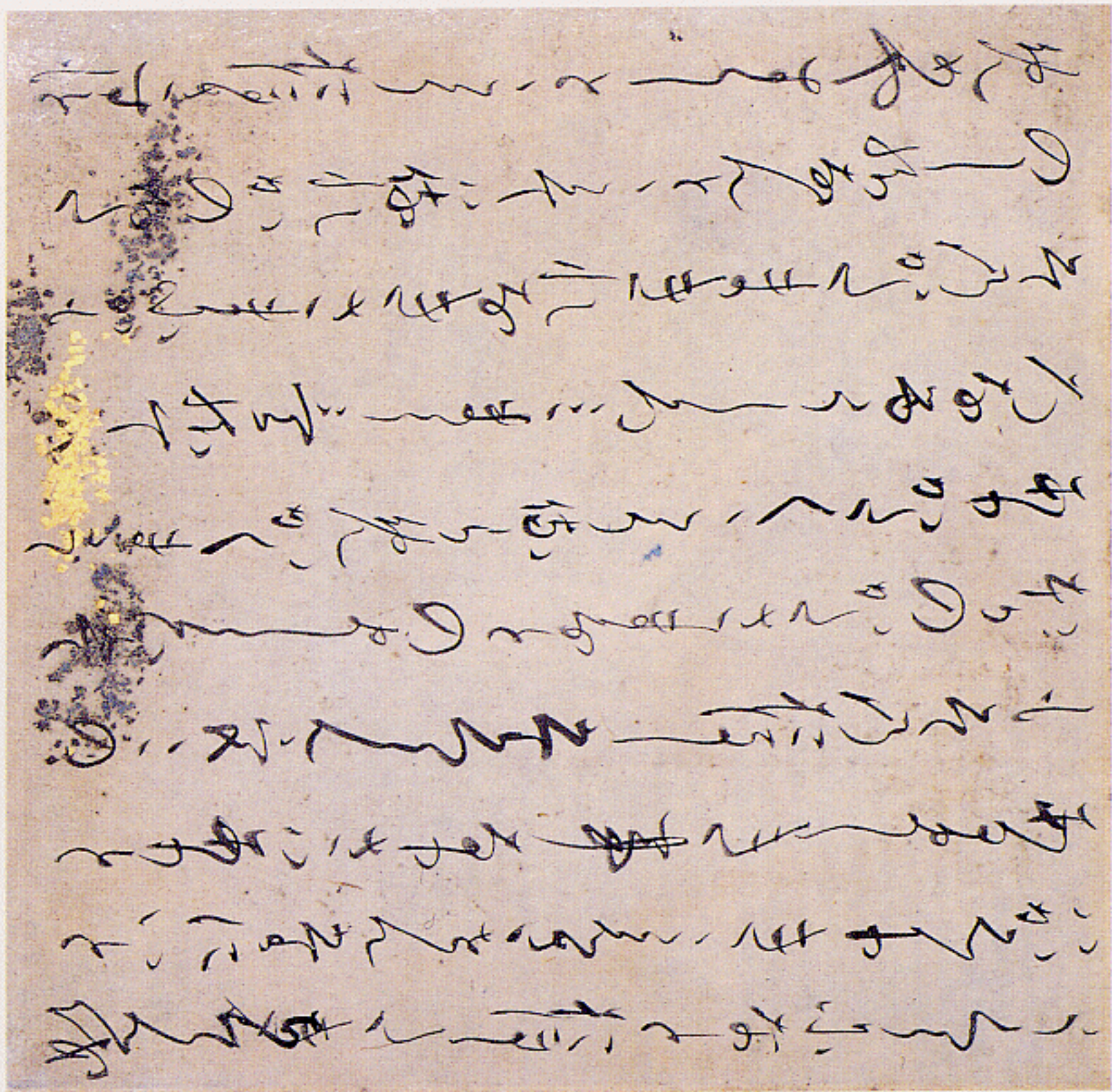
77 源氏物語 明石巻 奈良絵本



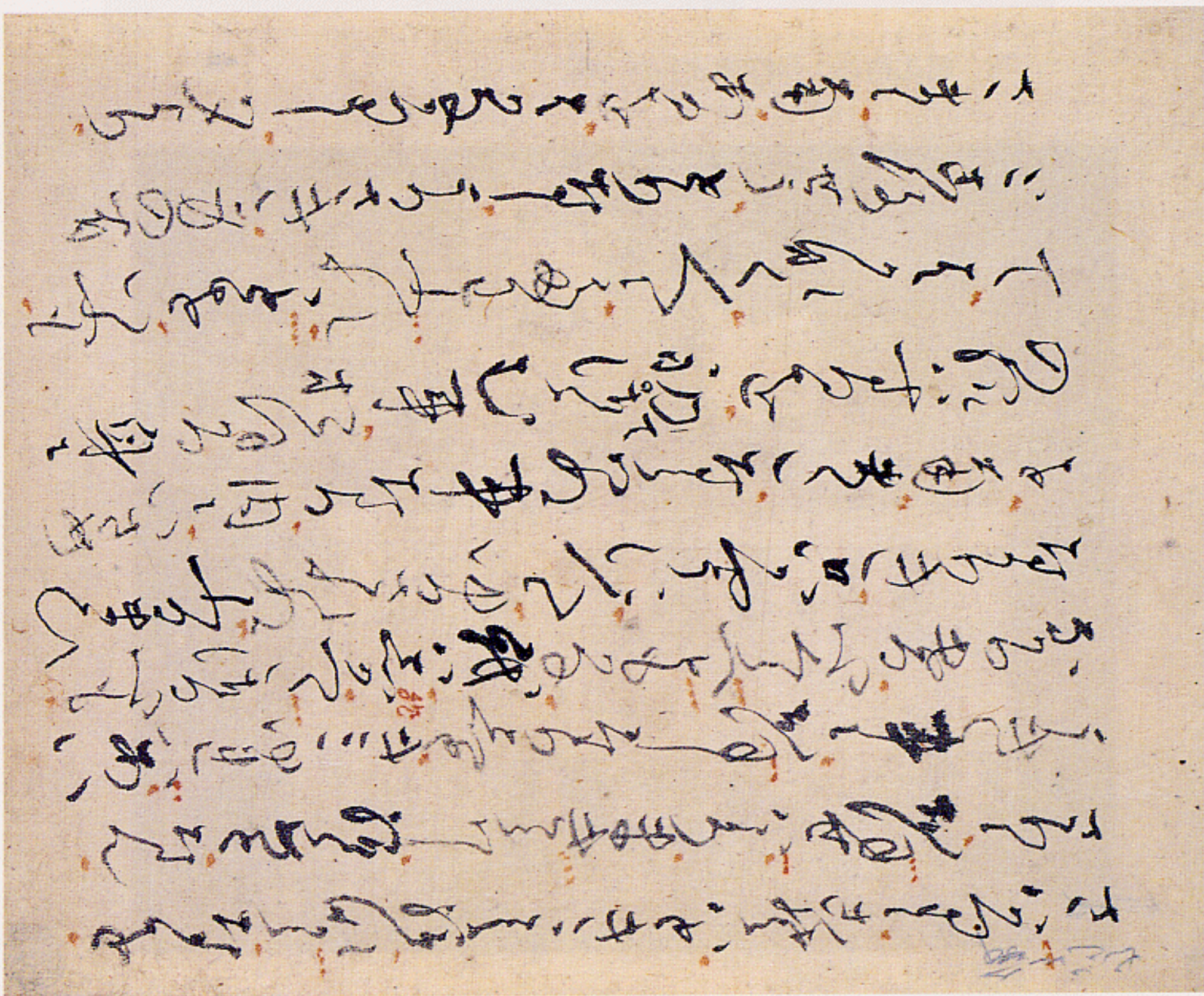
78 源氏物語 伝嵯峨本古活字版



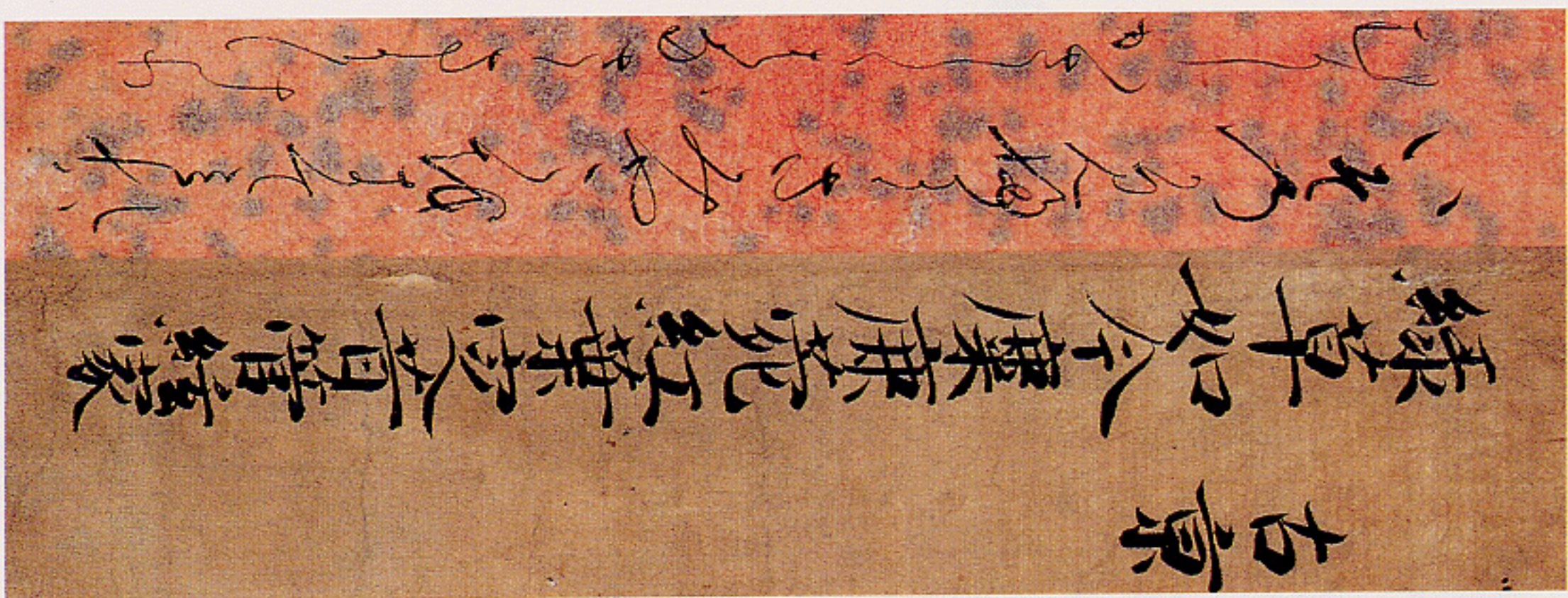
95 源氏双六 袖珍本



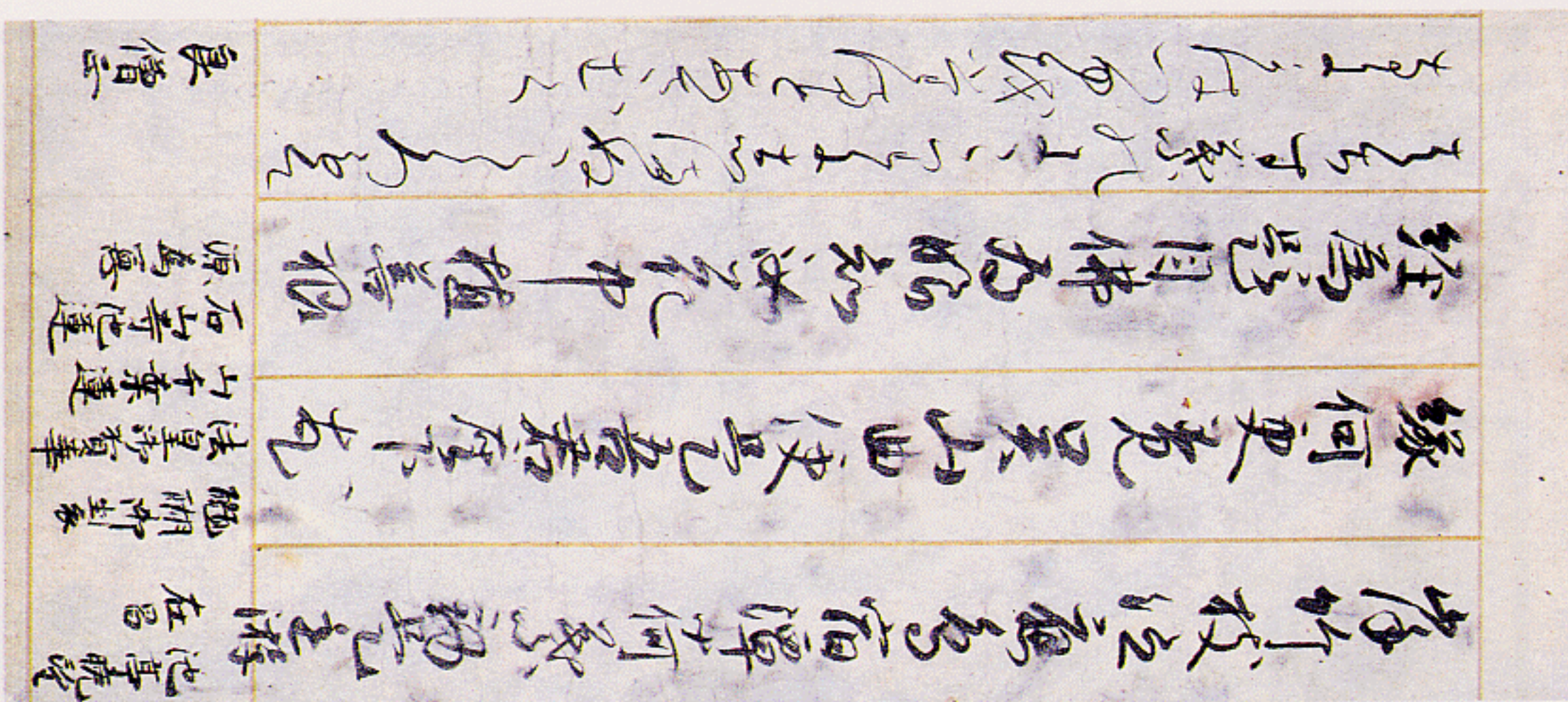
98 狭衣物語断簡 (伝阿仏尼筆)



81 源氏物語断簡 夕顔卷 (今川了俊筆)



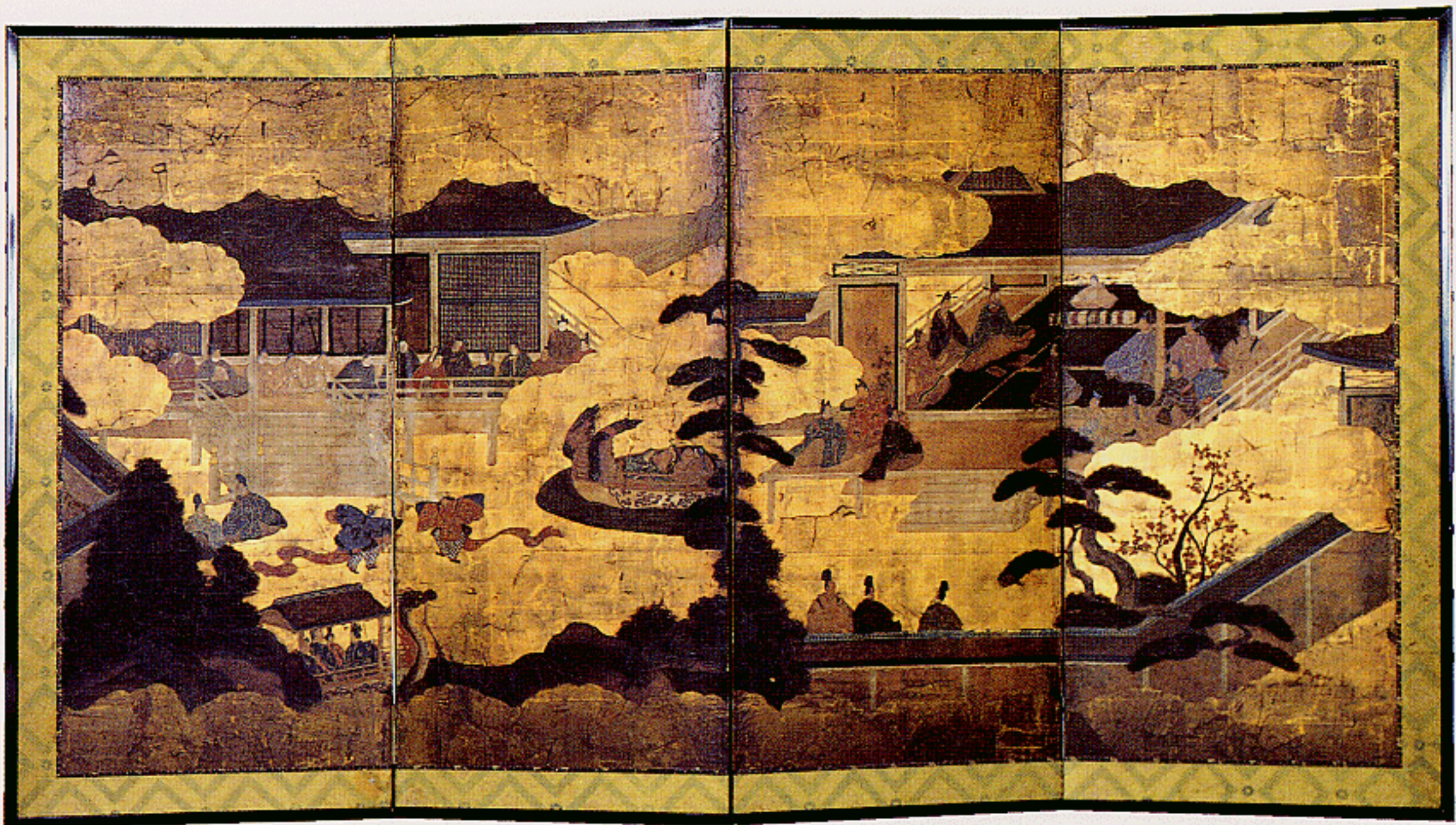
118 和漢朗詠集斷簡 (伝世尊寺行能筆)



117 和漢朗詠集斷簡 (伝藤原忠通筆)



96 源氏五十四帖絵巻（伝狩野探幽原図幽遠斎模写）

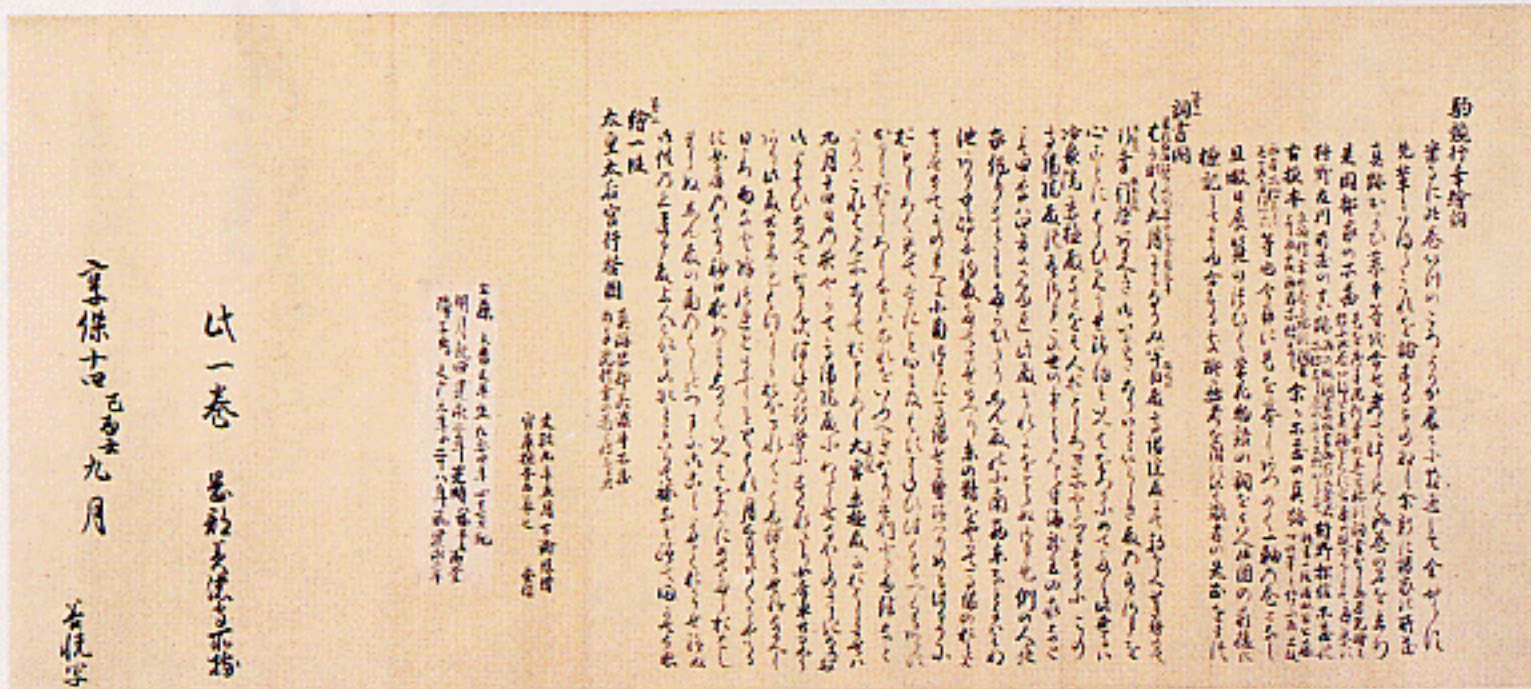


参考3 源氏物語屏風 桐壺・胡蝶巻



古撰全圖 狩野養信画
 未極行幸の巻と終りも去

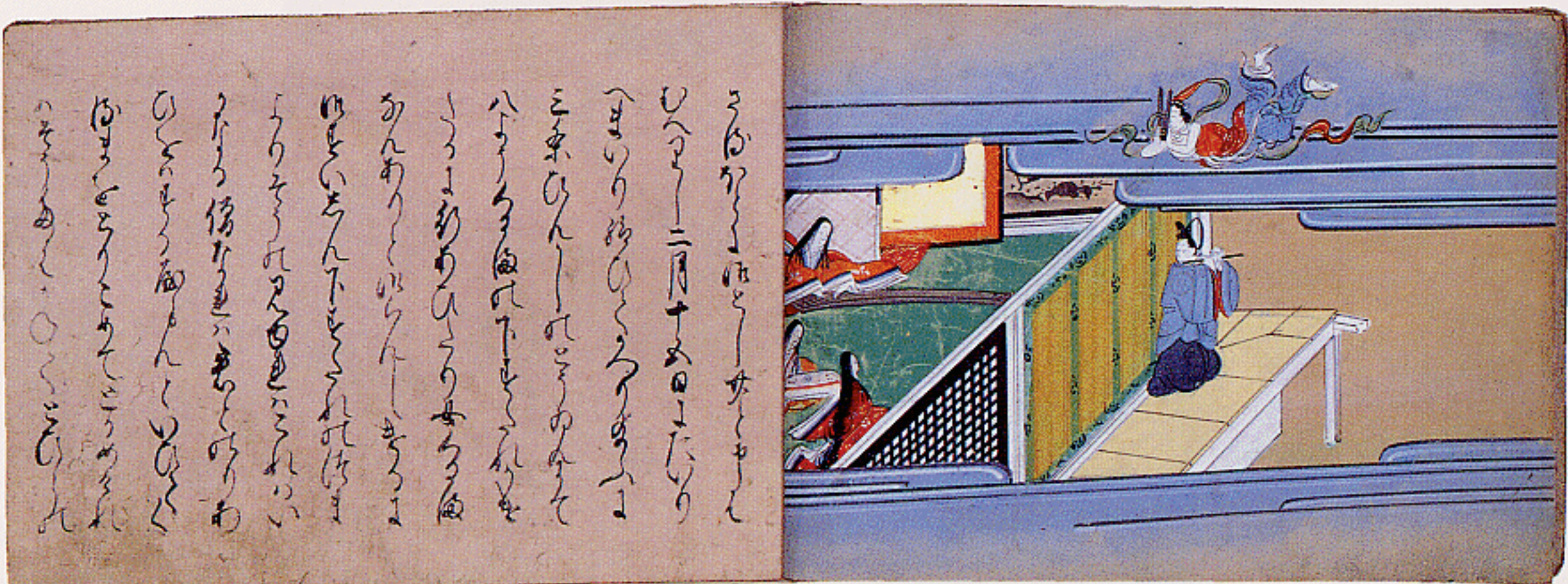
103-1 駒競行幸絵詞 (狩野養信模写)



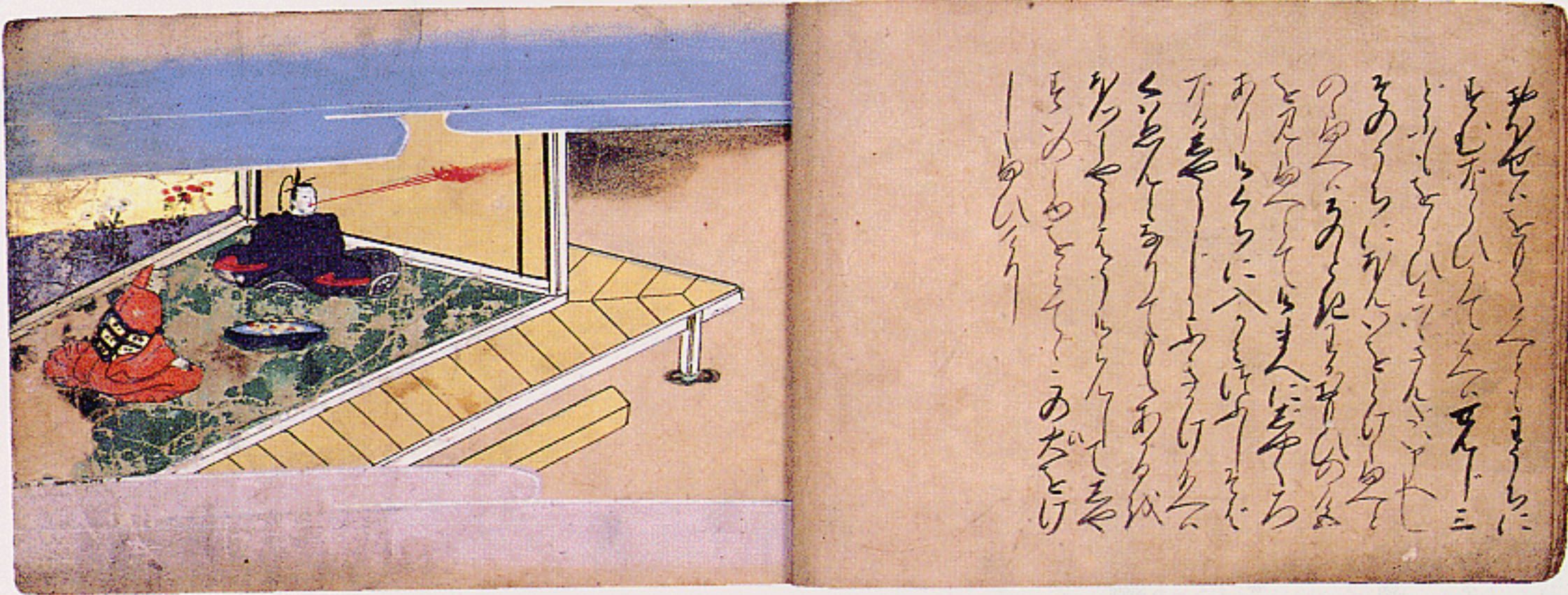
103-2 駒競行幸絵詞



参考2 源氏物語絵 空蟬巻



108 さごろも 奈良絵本



109 てんじん 下巻 奈良絵本



110 扇の草子断簡 (伝後花園院勾当内侍筆)

傳記
 三寶感應錄一册三帖 又一本三帖
 三寶國應錄一册二帖 亦一本三帖
 日本書紀一册三帖 上中下
 日本書紀二册二帖 上下
 大唐三寶取經記三帖 一三三
 續集古今仙道論衡一册
 感通賦一帖
 杖桑略記抄三帖 上中下
 務氏蒙求一帖 複上中下
 清涼傳一册 複上下
 辨育王聖靈疑二傳一帖 唐書
 日本國地勢并驗記一册
 之條坊内地勢驗記二册 上下
 目錄記一册
 三寶繪一册三帖 上中下
 一姓四心 東明法及清見三册
 良史記一册
 三寶歷見四册

1 [五合書籍目錄]

本朝書策目錄
 神道
 天書十卷
 大和本記二卷
 伴勢太神宮儀式一卷
 帝紀
 舊事本紀十卷
 初天地本紀
 日本紀世卷
 日本後紀抄卷
 文德實錄十卷
 右日本紀已下六部國史也
 類聚國史二百卷
 養老五年私記
 承和六年私記
 康保二年私記
 延喜五年私記
 古事記三卷
 官史記
 續日本紀世卷
 續日本後紀世卷
 三代實錄五十卷
 新國史世四卷
 弘仁元年私記三卷
 元慶二年私記
 義平六年私記
 日本紀私記三卷
 寶珍之庫

2 本朝書策目錄

言不墜耳信于載也與遊從之身遊使厚加贈遺並付不使受日明
 百既降使應載馳禮趣行待主既厚悅如羅什見處則未敢開命
 與歎其機慎重便教喻方至常共與自出俱別立新省於道邊
 園事供養並無所受待至分衛一食而已舍為人亦極善觀婆沙
 人方之乃赤毗婆沙什既師之亦稱高其婆沙四事供養衣鉢座
 具滿三間屋不以關心與為貨之造立寺舍而先帝誦四律持請出
 之疑其遺謀乃誡令誦老補藥方可五方百經三日懷不悞一字
 咸信伏以私始十二年譯四分等律律至十五年方始解產典即
 舍布願方近悲皆不受汝門道舍其佛念等三人著受各施于已
 不若他五百汝門皆重賜施舍後還西不知所終律教東行四分
 二僧律州光 晉義熙十二年七月共法顯等譯 此之二部元有卅卷至
 晉安帝世北天竺國三藏禪師伏佛歌跋難解言覺賢於楊
 都及廬山二處譯沙門法業慧慈慧嚴等筆受教東行傳
 第三 稱沙塞律卅四卷 見道藏卷之四 此之二部元有卅四卷至
 帝勞陽王世劉賓國三藏毗尼師佛陀什宗言覺壽少受業於
 於沙塞部傳情律品兼遺律要壽以塔元年七月到於陽都
 先是法顯於師子國得稱沙塞律本未及譯而顯遽化
 邑諸佛開佛地行既善此律於是眾議請令出之即以其并冬十
 一月集龍光寺譯名卅四卷什執梵文于頃沙門慧嚴等更五筆
 受泰丘文理儀同侍中師王錄名檀越至二年十二月方訖律教
 東行五分第四 解脫戒本一卷 此二年中譯律 卷之二卷至景武
 帝世東魏南天竺國波羅捺城婆羅門瞿曇般若流支文魏言
 智帝位元象初至與和宗在鄴城譯律有菩提流支雖復前後於
 同出經而衆目錄相傳抄寫上去菩提及般若字雅之流支譯不知
 是河派支這今群錄文汝相參認備相入難得詳定後實博採幸
 頗討之律教東行解脫第五
 篇張釋名章第三
 此章大門有二一列數釋名 二列性牌業 第三列數釋名者
 七果鈔義者今說有七名結罪論實公禰六法今先解七果後釋
 五篇 一波羅夷 二僧伽婆尸沙 三偷蘭遮 四波逸提 五波羅提
 舍尼 六突吉羅 七惡說 此之七名律元正軌且用義惟略知途路
 初者波羅夷者僧祇戒當極惡權有三意 名退沒由犯此戒令道
 果元分三名不共任非失道而已不更入二種僧數一羯磨二說戒三頂
 落義此身 已墮在阿鼻地獄 十誦云因在不加蒙僅婆多

4 [律抄] 斷簡

第三重(一)明者
 謂中者大率都婆
 明者乳之元氣也
 或秘說用乳之元氣也
 凡第三重之習誠甚深也佛
 遺告阿闍梨位者則是也
 大師位惠果三箇是定論
 灌頂元胎藏次金界弟
 三阿闍梨位不受此位者
 不堪與執範師則而律不
 二理智冥合之表下也但
 於明兩部五佛種子也
 種子之稱一字之內五大成
 天理智之名猶似隔列夫
 文字者金界大日種子各表
 字者胎界大日種子各表
 理知之(邊)字智水中
 雖有大性息不施其有之
 中水以同之矣今以不二字
 不二明與真冥合謂五字
 五輪塔遠是也器界與生
 界皆以五輪而成也自宗
 意五大之上立識大所謂
 六大異身常瑜伽也又之謂
 心身佛塔也色心不離之意
 有秋識者皆五大五輪塔

5-1-1 [第三重口決](東寺旧藏伝授書)

也字中秋三身者字至金
 輪種子中五輪塔遠成五
 輪具身所轉也凡甚深極
 理難難述詞難顯以
 即書而真宗意平結塔
 中口誦五大明意觀方法
 皆五大而成是名三容相應
 此觀前說
 三容相應 心外無別法
 心佛及眾生 是一實也
 謂一乘平等極理者是也
 雖有凡位此實同佛界
 以此習為秘之上秘深三
 中深也
 高師大師秘有真則
 意也又口非菩提之難得
 難過此教也 你可信勿
 生疑或得此道理積功累
 德者遂可證實智不昂
 身成佛者無謬信之信也天
 罪障重之故也分可信
 可你 柝知此大事之
 人更不可留生无遂 用覺
 月此上委細 依業不記
 之在面完質
 保延六年三月十二日記之
 定海

5-1-2 [第三重口決]

古今和歌集卷第一

春序上

あはれこころは春のさけ日ごと

在原元方

年あはれ春のさけ日ごと

兼好古今

紀貫之

神代さけ日ごと

類上

春のさけ日ごと

二条のまゝ春のさけ日ごと

雪のけしき春のさけ日ごと

類上

梅のさけ日ごと

高木の本まゝ春のさけ日ごと

素性法師

春のさけ日ごと

類上

あはれこころは春のさけ日ごと

あはれこころは春のさけ日ごと

9 古今和歌集 (兼好古今)

古今和歌集卷第一

春序上

あはれこころは春のさけ日ごと

在原元方

兼好古今

年あはれ春のさけ日ごと

兼好古今

紀貫之

神代さけ日ごと

類上

春のさけ日ごと

二条のまゝ春のさけ日ごと

雪のけしき春のさけ日ごと

類上

梅のさけ日ごと

高木の本まゝ春のさけ日ごと

素性法師

春のさけ日ごと

類上

あはれこころは春のさけ日ごと

類上

兼好古今

10 古今和歌集

子に思ひては
まはるも心
本松院の
まはるも心
まはるも心
まはるも心
まはるも心

まはるも心
まはるも心
まはるも心
まはるも心
まはるも心
まはるも心
まはるも心

高麗五

まはるも心
まはるも心
まはるも心

まはるも心
まはるも心
まはるも心
まはるも心

まはるも心
まはるも心
まはるも心

後撰和歌集卷第

新勅撰和歌集卷第三

夏詩

景えす

相模

かよらんそよよやまらふ志りしをらりて
すれみまきのかこえりていん
なる、ぬもそら入てけりけしよのあ
やまらひすすむへよそり

二條天皇天皇天皇

なるのけり先代歌こそよらん侍守り

二條院皇太后常陸

まよまらつう。ささげけりていん

えのれとつれとすたう梨子

家百首等よ首夏の心とよん侍守り

前開白

まよまらつう。ささげけりていん
えのれとつれとすたう梨子

景志一也

21 新勅撰和歌集 上 (伝後伏見天皇筆)

新勅撰和歌集卷第十六

雑詩上

さるりていん侍守り

選子内親王

かよらんそよよやまらふ志りしをらりて
すれみまきのかこえりていん

頌

選子内親王家攝津

さるりていん侍守り

かよらんそよよやまらふ志りしをらりて

選子内親王

さるりていん侍守り

かよらんそよよやまらふ志りしをらりて

入道二品親王道助

さるりていん侍守り

かよらんそよよやまらふ志りしをらりて

22 新勅撰和歌集 下